別冊 2

新県立博物館（仮称）詳細設計
〔展示〕最終報告（素案）

平成22年6月18日

■新博物館のめざす姿

■ 使命

○ 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす
○ 学びと交流を通じて人づくりに貢献する
○ 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

■ 活動理念

「ともに考え、活動し、成長する博物館」

すべての博物館活動を県民・利用者のみなさんに開き、ともに考え、活動するなかで、成長する博物館づくりを展開します。

博物館活動 ・調査研究活動 ・収集保存活動 ・活用発信活動　県民・利用者のみなさんに開き、一緒に

■ テーマ

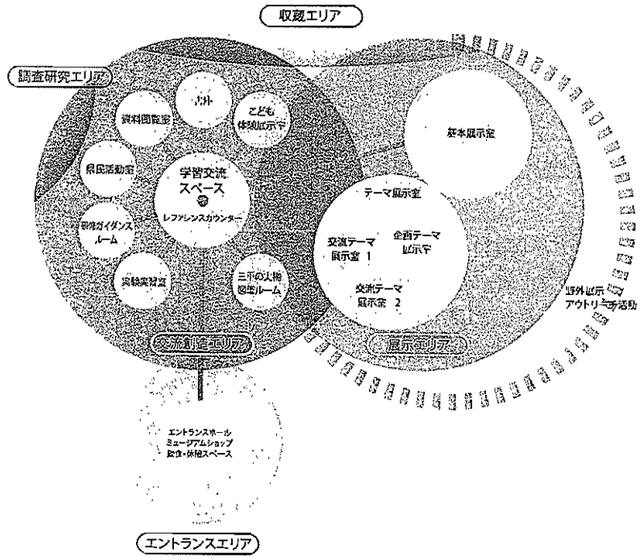
三重がもつ「多様性の力」

三重の特色は、日本の縮図ともいわれる多様で豊かな自然と、東西文化の結節点としての盛んな交流により生みだされた多様な歴史・文化をもつことにあります。
新博物館では、三重の特色である「多様性」を県民・利用者のみなさんとともに探求し、「多様な資産」を保存継承することにより、地域への誇りと愛着を育み、地域に活力をもたらし、新たな文化を創造する力、今をつくり、未来を切り拓く力を生みだしていきます。

■展示設計の範囲

「展示室」だけでなく「活動・空間」へと対象を広げた設計

新博物館では、すべての博物館活動を県民・利用者のみなさんに開き、ともに三重の特色である多様で豊かな自然と歴史・文化を探求し、守り伝え、そして生かし、力にしていくための博物館活動を展開し、未来につながる新たな知を創造・発信することをめざしています。
このような博物館を実現していくため、従来型の「展示室」設計から、県民・利用者のみなさんが、博物館活動を主体的・積極的に展開できる場の創出を目的とした「活動・空間」へと対象を広げた設計としました。



「活動・空間」設計をめざしたことから、対象範囲は、基本展示など常設的な展示室だけでなく、博物館の活用発信活動を展開する交流創造エリアと展示エリア、さらにエントランスエリア、館外などでみなさんに利用いただく空間も含めた範囲を対象としました。

（新県立博物館の施設構成と対象範囲）　◎が対象範囲
◎ エントランスエリア（エントランスホール、ミュージアムショップなど）
◎ 交流創造エリア（学習交流スペース、こども体験展示室、資料閲覧室など）
◎ 展示エリア（基本展示室、企画テーマ展示室、交流テーマ展示室１・２）
・ 収蔵エリア（分野別収蔵庫）
・ 調査研究エリア（標本製作室、資料整理室など）
・ 管理エリア（事務室、救護室など）

※以上のほか、館外の「ミュージアムフィールド」やアウトリーチ活動（移動展示や出前授業）も対象としました。

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

■展示の3つの基本

新博物館のめざす姿を具体化するにあたって、次の3つを基本において展示設計を行います。

1.三重の自然と歴史・文化のことがわかる展示

子どもから大人までだれもが、わくわく・どきどき感を持って楽しむことができる展示とします。また、新しい発見や魅力に満ち、親しみやすく理解しやすい展示としていきます。さらに、総合博物館の特性を生かし、自然や歴史などの各分野や、これらを総合的に捉える展示を展開することで、三重の多様性や三重の持つ多彩な魅力をさまざまな視点から紹介します。
あわせて、博物館内外の各所で、三重を知り、学び、探求できるよう、さまざまな演出やしかけを配置します。

ex) 展示エリアでの展開

多様で豊かな三重の自然と歴史・文化の魅力を紹介する「基本展示」と、複数のテーマによる大小さまざまな企画展示の組み合わせで展開する「テーマ展示」の2つの展示を展開します。これらは、互いに連動、連携しながら、重層的かつ、変化に富んだ展開とし、三重の特色である「多様性」を探求し、県内外に発信します。

2.みんなで一緒につくっていく展示

県民・利用者のみなさんとともに行う調査研究の成果の展示をはじめ、みなさんから寄せられる地域の情報を展示などで発信していくなど、双方向の交流型の活動を展開します。また、新たな出会いや交流の場となる展示活動を行っていきます。そのため、だれもが気軽に情報の受発信を行うことができ、だれもが博物館資料を閲覧・活用できる環境を整備します。

ex) 基本展示室での展開

「調べる・参加する展示」として、県民・利用者のみなさんから集まる情報などを活用できるしくみや、ワークショップを実施するしかけを整備します。

3.子どもたちを育む展示

こども体験展示室をはじめ、展示や交流創造エリアなどの館内だけでなく、野外のミュージアムフィールドも含めた敷地全体を活用して、子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して、知ること、考えることの楽しさを知り、博物館や自分たちが住む地域に対して興味・関心がもてるようにします。
あわせて、学校利用への対応など、子どもたちの学習に配慮した展示とします。

ex) 三重の実物図鑑ルームでの展開

三重の実物図鑑ルームでの検索やレファレンスカウンターでの相談など、子どもたちが持ち込んだ昆虫標本などの三重の自然と歴史・文化に関する身近な資料を自分で調べ、探求する喜びを体験できるようにします。

■対象を広げた設計の考え方

基本展示など常設的な展示室だけでなく、博物館の活用発信活動を展開する「交流創造エリア」と「展示エリア」、さらに「エントランスエリア」、「館外」など、みなさんに利用いただく空間全体を対象に、「ともに考え、活動し、成長する博物館」の活動が行われるような空間を設計します。

Point 1

「三重が持つ『多様性の力』」を創造する交流創造エリアと、発信する展示エリアが融合することで、新しい活動を生み出す

新博物館の特色として、新たに設ける交流創造エリアと展示エリアを融合。だれもが、展示を見るだけではなく、博物館に蓄積された三重の自然と歴史・文化に関する資料や情報を幅広く活用し、活発に活動・交流できるようにすることにより、新たな知の創造・発信を生み出す場とします。
さらに、館内のエントランスエリア、館外のミュージアムフィールドで展開する野外展示、県内各地で繰り広げるアウトリーチ活動（移動展示・フィールドワーク等）などとも連動することにより、活動の場を広げます。

交流創造エリア は、

だれもが三重の自然と歴史・文化に関する資料、情報を活用し、主体的に活動・交流できる空間。

連動

さまざまな博物館活動への入り口となって、交流創造の活動の輪を広げるための中核的な役割を果たします。これにより、県民・利用者と館、県民・利用者相互の対話や交流が活発に展開されることで、地域への愛着と誇りを育み、新たな創造と発信につなげる場とします。また、好奇心いっぱいの子どもたちが集う場とします。

展示エリア は、

基本展示とテーマ展示を複合的に展開させ、多様な三重の自然と歴史・文化の魅力を伝え、未来へとつなげる展示。

三重の多様で豊かな自然と歴史・文化の魅力を紹介する「基本展示」と、複数のテーマによる大小さまざまな企画展示の組み合わせで展開する「テーマ展示」とを複合的に展開連動させ、三重の特色である「多様性」を探求し、県内外に発信します。

Point 2

公文書館機能をあわせもつことで、より幅広くなる三重の自然と歴史・文化に関する資料と情報を最大限活用できる

三重の今を未来に引き継ぐ県民共有の知的な財産として、博物館の資料とともに、県の歴史的公文書を一体的に保存し、活用できるようにします。これにより、資料活用の幅を広げ、博物館活動の充実につなげます。
このため、展示設計では、資料閲覧とレファレンス機能の充実強化を図るなど、公文書館機能の一体化を前提に活用発信活動のための検討を進めました。

Point 3

三重の魅力と博物館の楽しさを伝える空間構成

展示エリアだけでなく、交流創造エリアやエントランスリアなどの館内や屋外のミュージアムフィールドなど、館内外のさまざまな場所で「三重らしさ」や「楽しい博物館」を演出するデザインや展示などを展開することで、空間全体で、三重の多様性とその魅力、博物館らしさを発信します。

（館内）

- ミエゾウの復元骨格標本や足跡化石標本など、三重をあらわす博物館資料を配置する「博物館資料に親しむコーナー」を設置します。
- 研修ガイダンスルームや実験実習室などの諸室に、博物館らしい雰囲気を演出します。
- 飲食休憩スペース、ミュージアムショップ、廊下、トイレ、授乳室などの共用スペースにおいても、ふとした気づきのきっかけとなるような、博物館らしさ、三重らしさを演出します。
- 学習交流スペースなどに設置する棚、机、椅子などの家具・備品類についても、三重の魅力を伝えるスギ、ヒノキなどの県産材やデザインを積極的に活用し、館内全体で「三重らしさ」を演出するとともに、気づきのきっかけとします。
- エントランスホールでは、博物館の顔として、わくわく感・期待感を高めるような演出を行います。

（館外）

- 里山と交流の広場からなる敷地内の緑地全体を「ミュージアムフィールド」とし、交流の広場には、館内から野外へと誘う場としての野外学習スペースを設置します。
- 敷地内の樹種や石材の種類については、館内の展示との関連や周囲の環境に配慮しつつ、三重にゆかりのあるものや地域に由来するものなどを活用します。
- ハイブリッド照明（太陽光・風力発電を利用した省エネルギー照明）などを設置し、「見える環境技術」として環境学習の効果が高まる設備を配置します。
- かつてこの地域にあった里山への再生を図るとともに、野外ならではの展示の場（野外展示）として位置付け、自然体験などのさまざまな参加型プログラムを用意します。

Point 4

県内全域が活動フィールド　―アウトリーチ―

県内各地域においても、移動展示や講座、フィールドワーク、地域の博物館との連携展や諸団体との地域共同調査研究、学校連携といった形で、博物館活動を展開します。
このため、展示設計において、地域での移動展示の展開をスムーズに行うための基本的な展示具・ケースなどの整備や、学校カリキュラムに沿った貸し出し用資料パッケージと活用の手引の作成などを進めます。

設計概要

県民・利用者のみなさんとともに、三重が持つ『多様性の力』を探求し、新たな知を創造・発信する博物館

新博物館のめざす姿を具体化する設計の視点から、3階建の建物のうち、収蔵エリアを1・2階に、エントランスエリアを2階に、活動発信活動を展開する交流創造エリアと展示エリアを2・3階に配置しています。みなさんに、気軽にご利用いただきやすい空間となるよう、わかりやすい施設構成とします。

県民のみなさんに開かれた明るい「エントランスエリア」

エントランスエリアは、建物の2階に設けています。メインエントランス（出入口）だけでなく、館東側の交流の広場からの出入口も設置するなど、だれもが気軽に立ち寄れる空間とします。エリア内には、三重の魅力と楽しさにあふれた空間としての飲食・休憩スペースやミュージアムショップなどを配置するとともに、3階の交流創造エリアや展示エリアなどへの期待を高める効果的な演出とします。

明るく開放的な「交流創造エリア」

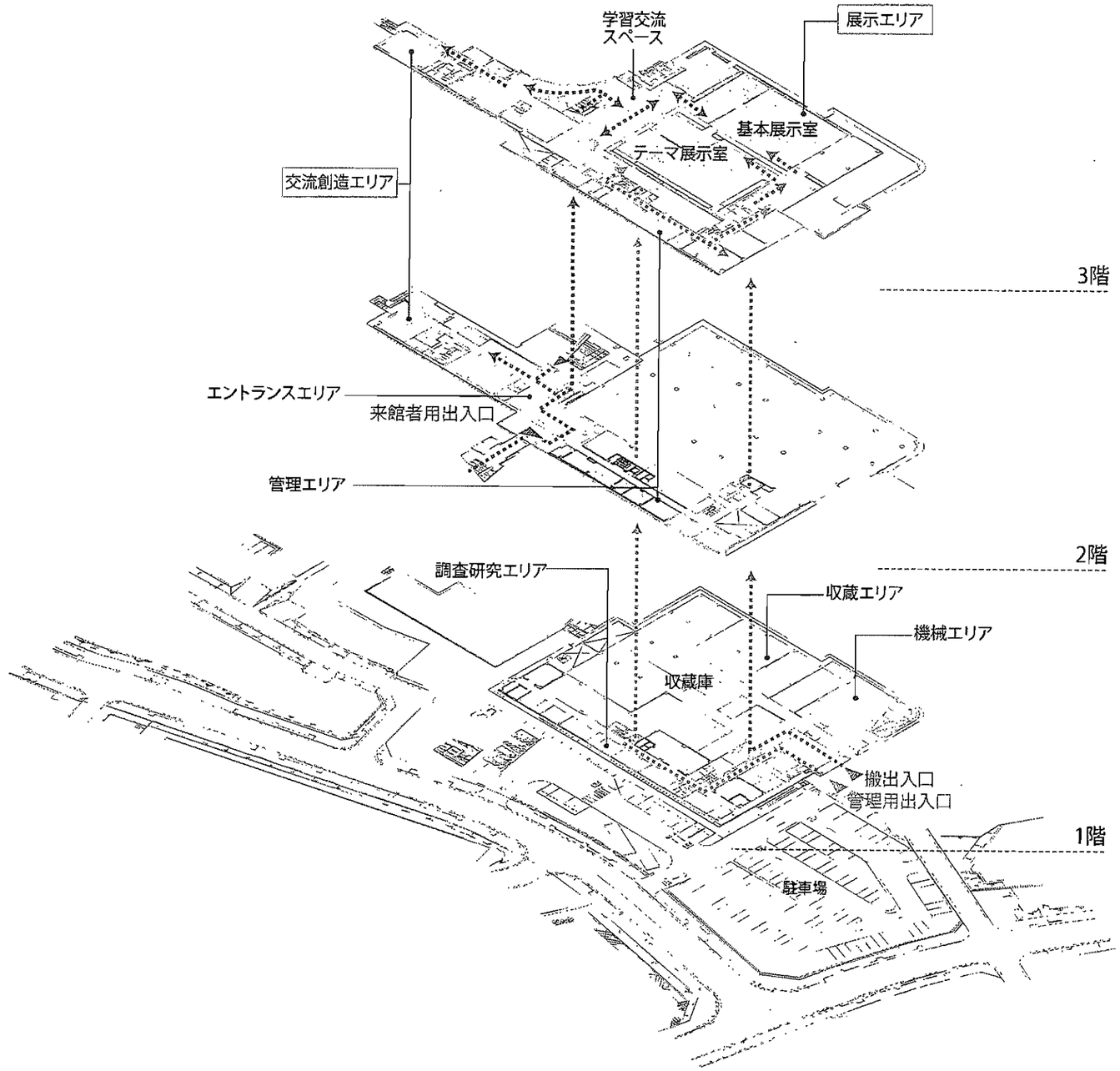
交流創造エリアは、新博物館の特色である「交流創造」を積極的に展開するための中核的役割の場です。活動の中心となる学習交流スペースをはじめ、こども体験展示室、資料閲覧室などの諸室の機能連携により、三重の自然と歴史・文化に関する県民・利用者のみなさんの多様な興味や関心、目的に応える活動を展開する、明るく開放的な空間とします。

交流創造エリアと相乗効果を高める「展示エリア」

展示エリアは、展示資料の動線や保存環境に配慮した位置に配置するとともに、交流創造エリアと連動することで、博物館活動の幅を広げるなどの相乗効果を高めます。三重の多様で豊かな自然と歴史・文化の魅力を紹介する「基本展示」と、複数のテーマによる大小さまざまな企画展示の組み合わせで展開する「テーマ展示」の2つの展示を展開することで、三重の特色である「多様性」を探求し、県内外に発信します。

外気の影響を受けにくい「収蔵エリア」

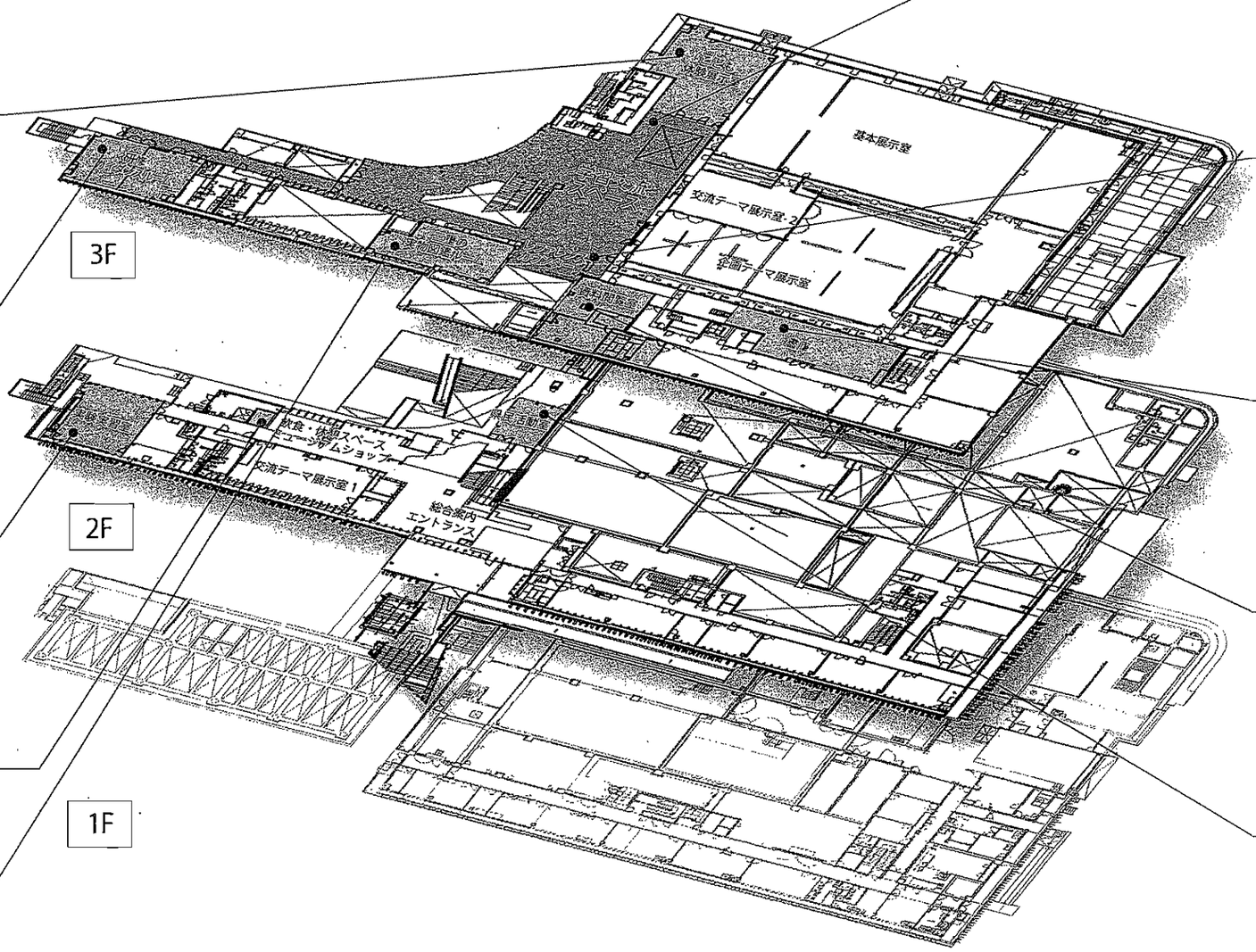
大切な資料を安全に保存していくため、収蔵エリアは、外気の影響を受けにくい1・2階に配置しています。資料の種類、内容に合わせて保存環境の異なる収蔵庫を設け、資料の保存、管理、研究に適した施設とします。



TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

多彩な活動と交流が生まれる博物館の中核となる交流創造エリア

県民・利用者のみなさんによる博物館活用の基点となる学習交流スペースを中心とした諸室の機能連携により、三重の自然と歴史・文化に関する県民・利用者のみなさんの多様な興味や関心、目的に応えるとともに、活動と交流の輪を館内外に広げていきます。



こども体験展示室

博物館の楽しさを知ることができる体験型の展示により、子どもたちに博物館を好きになってもらうための部屋　(P.参考-1)

研修・ガイダンスルーム

講座や研修会、団体・学校向けのガイダンス（説明・案内）を行うための部屋

実験実習室

さまざまなワークショップや実験・実習型の講座を開催するための部屋

オオサンショウウオ飼育水槽

特別天然記念物であるオオサンショウウオを、最適の環境下で飼育します。

三重の実物図鑑ルーム

三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を実物図鑑的に展示する部屋　(P.参考-2)

学習交流スペース

交流創造エリアの中心的な役割を果たすスペース
交流創造エリアの他の諸室や展示エリアとも機能連携しながら、三重の自然と歴史・文化に関する興味や関心、目的に応じた県民・利用者のみなさんの学習や研究、グループ・団体等の活動と交流が行われる場所　(P.6-7)

レファレンスカウンター

学習交流スペースの窓口として、三重の自然と歴史・文化、県の歴史的公文書、県内外の博物館・公文書館に関する問い合わせや相談など、県民・利用者のみなさんの活動や交流をサポートする窓口

書庫

県民・利用者のみなさんが閲覧利用できる約８万冊の書籍（三重の自然と歴史・文化および県内外の博物館・公文書館に関する書籍類）を収蔵する部屋

資料閲覧室

新博物館に収蔵される三重の自然と歴史・文化に関する資料（県の歴史的公文書も含む）を閲覧できる部屋　(P.参考-3)

県民活動室

博物館で活動・交流する県民・利用者のみなさん、グループ・団体等が活用できる部屋

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

展示3.	学習交流スペース

学習や研究、グループ・団体等の多様な活動と交流が展開する空間

ミュージアムフィールド側に開かれた明るい空間とします。
交流創造エリアの他の諸室を結ぶ中心的な役割を果たし、展示エリアとも連動させます。目的に応じたコーナーが有機的につながる配置とします。
三重の自然と歴史・文化等に関する問い合わせや相談、情報や書籍の閲覧、個人やグループによる活動や交流が柔軟に展開できる空間とします。
博物館資料に親しめるような展示コーナーも設けます。

■ゾーニングの考え方

レファレンスカウンター
県民・利用者のみなさんの活動や交流をサポートする窓口。学習交流スペースの核となる場として、資料閲覧室や開架書籍・情報コーナーと隣接するとともに、学芸員室と近接した配置とすることで、臨機応変に対応します。

資料相談コーナー
レファレンスカウンターの横、三重の実物図鑑ルームや資料閲覧室・書庫とも近接することで、連動して県民・利用者のみなさんの資料相談などに対応します。

資料閲覧室
レファレンスカウンターと近接することで、各種資料の閲覧に柔軟に対応できるとともに、収蔵庫からの資料がスムーズに搬出入できるよう、管理エリアと隣接した配置としています。

開架書架・情報コーナー
三重の自然と歴史・文化に関する書籍や、情報を利用するみなさんにとって、より効果的な広がりとなるよう、レファレンスカウンターや資料相談コーナーと隣接した配置としています。

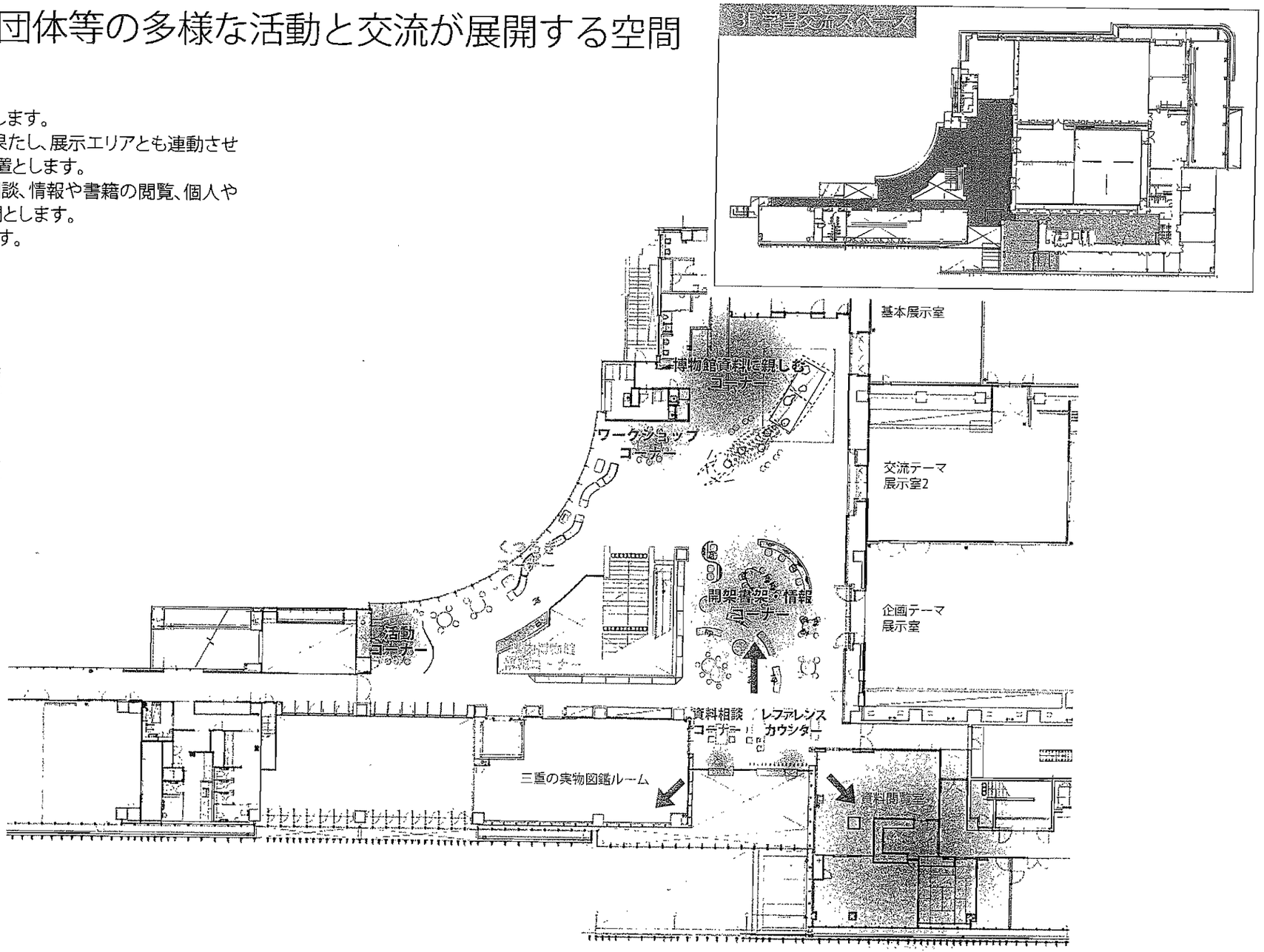
博物館資料に親しむコーナー
交流創造エリアに博物館資料を展示することで、館全体で三重の魅力と楽しさを発信することとします。

ワークショップコーナー
3階の交流創造エリアに入ってすぐの場所にワークショップコーナーを展開することで、訪れた県民・利用者のみなさんが、気軽に参加できる場とします。

くつろぎコーナー
ミュージアムフィールド側に面した明るい空間に配置し、一人でもゆったりとくつろげるコーナーとします。

活動コーナー
博物館で活動するさまざまなグループのミーティングや活動の発表などに活用できるコーナー。活動内容などの各種情報の掲示も可能な配置とします。

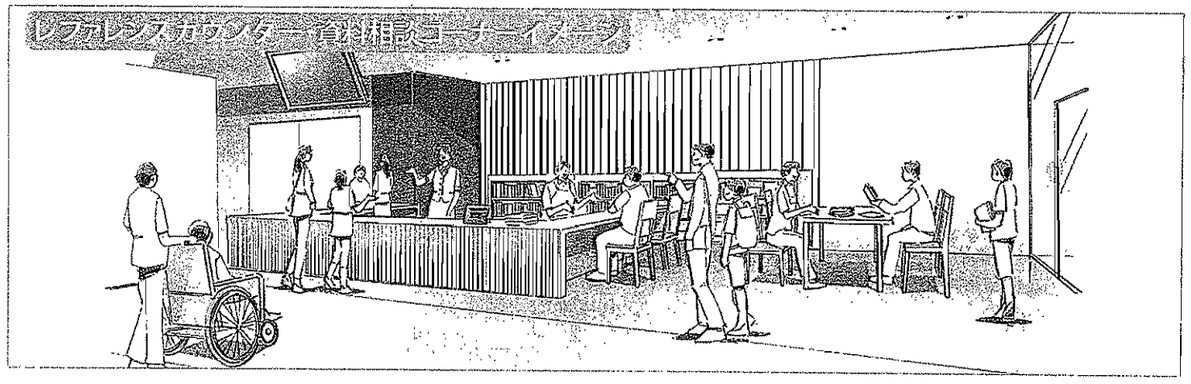
県内博物館情報コーナー
県内博物館情報の受発信を積極的に展開し、県民・利用者のみなさんの興味・関心が県内博物館にも広がるよう、情報コーナーを配置します。



展示3.	学習交流スペース

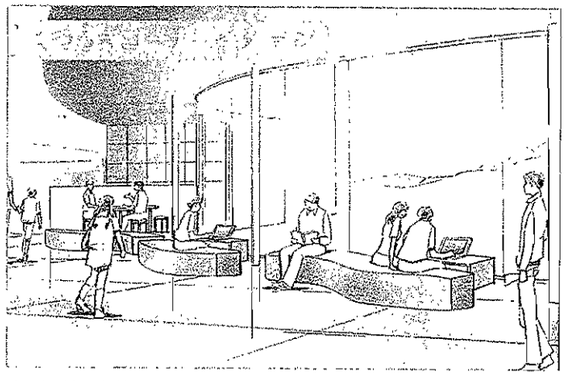
三重の魅力や博物館の楽しさを伝える雰囲気にあふれた空間

県民・利用者のみなさんが、最も活発に活動する交流創造エリアの中心となる学習交流スペース内では、
各所に県産材や三重をイメージさせるデザインを施し、親しみやすく活気あふれた空間とします。

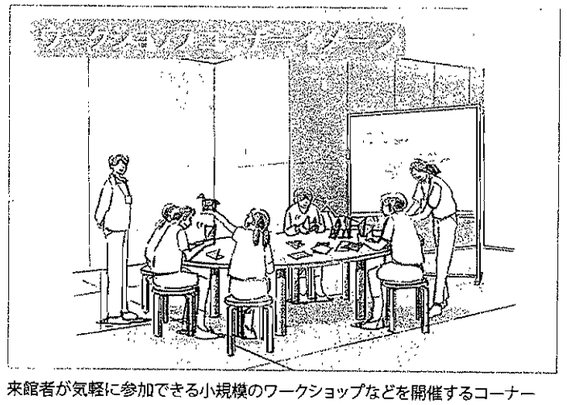


学習交流スペースの中心。三重の自然と歴史・文化、県の歴史的公文書、県内外の博物館・公文書館に関する問い合わせや相談など、県民・利用者のみなさんの活動や交流をサポートする窓口。三重の実物図鑑ルームや資料閲覧室と連動して、県民・利用者のみなさんの資料相談などに対応できるコーナー

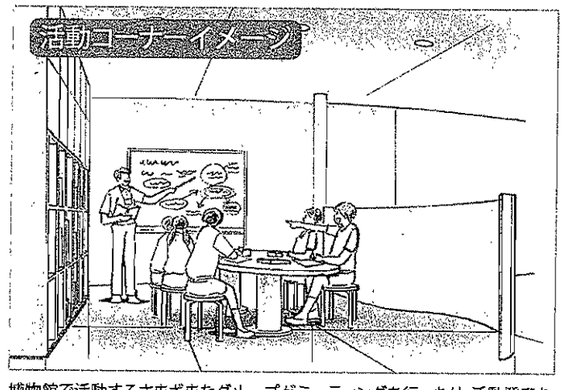
三重の自然と歴史・文化に関する基本書籍を収めた開架書架、収蔵資料（県の歴史的公文書も含む）のデータベース検索端末、三重の自然と歴史・文化に関する映像や情報を視聴できる端末などを設置し、学習や研究に活用できるコーナー



ゆったりとした椅子を配置し、本を読んだり、ミュージアムフィールドを眺めながらくつろいだりするコーナー

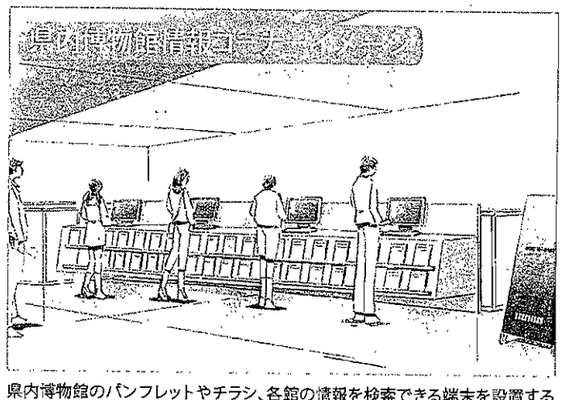


来館者が気軽に参加できる小規模のワークショップなどを開催するコーナー

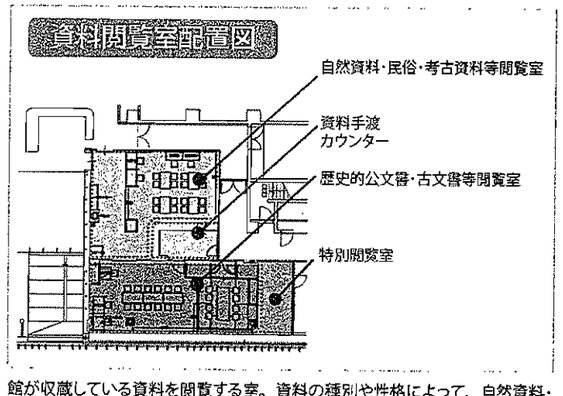


博物館で活動するさまざまなグループがミーティングを行ったり、活動発表などを行ったりするコーナー

博物館活動を象徴的に示すものとしてミエゾウの復元骨格標本を展示するなど、三重の魅力や楽しさをあらわす博物館資料を展示するコーナー



県内博物館のパンフレットやチラシ、各館の情報を検索できる端末を設置するなど、県内の博物館・資料館を利用するためのコーナー



館が収蔵している資料を閲覧する室。資料の種別や性格によって、自然資料・民俗・考古資料等閲覧室、歴史的公文書・古文書等閲覧室、和室、特別閲覧室の４つの閲覧室を設置。

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

基本展示室と複数のテーマ展示室が連動して、さまざまな三重を発信する

基本展示室と可変的な複数のテーマ展示室で構成する展示エリアでは、三重の魅力を概観する基本展示と複数のテーマによる大小さまざまな企画展示などを複合的に展開し、それらが連動することで、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化を多角的に発信します。

基本展示室

三重の特色である自然と歴史・文化の「多様性」やその魅力をわかりやすく紹介し、「三重ってすごいところ!」を発信します。一つの空間で展示することで、豊かな自然の中で人・モノ・文化やくらしが育まれた三重を総合的に表現します。美しさ、ダイナミックさなど、体感的に伝える展示で来館者をひきつけ、さらにより詳しい情報へと興味・関心を深める展示とします。

(P.10-12)

テーマ展示室

展示の内容・規模に対応する3つの可変的で柔軟な利用ができる展示室によって、全国規模から小さな展覧会まで、また、館の自主企画から県民・利用者のみなさんとの協創による展示まで、さまざまな展示を組み合わせて展開し、更新することで、三重の魅力を多角的に伝えます。

(P.13)

交流テーマ展示室 1

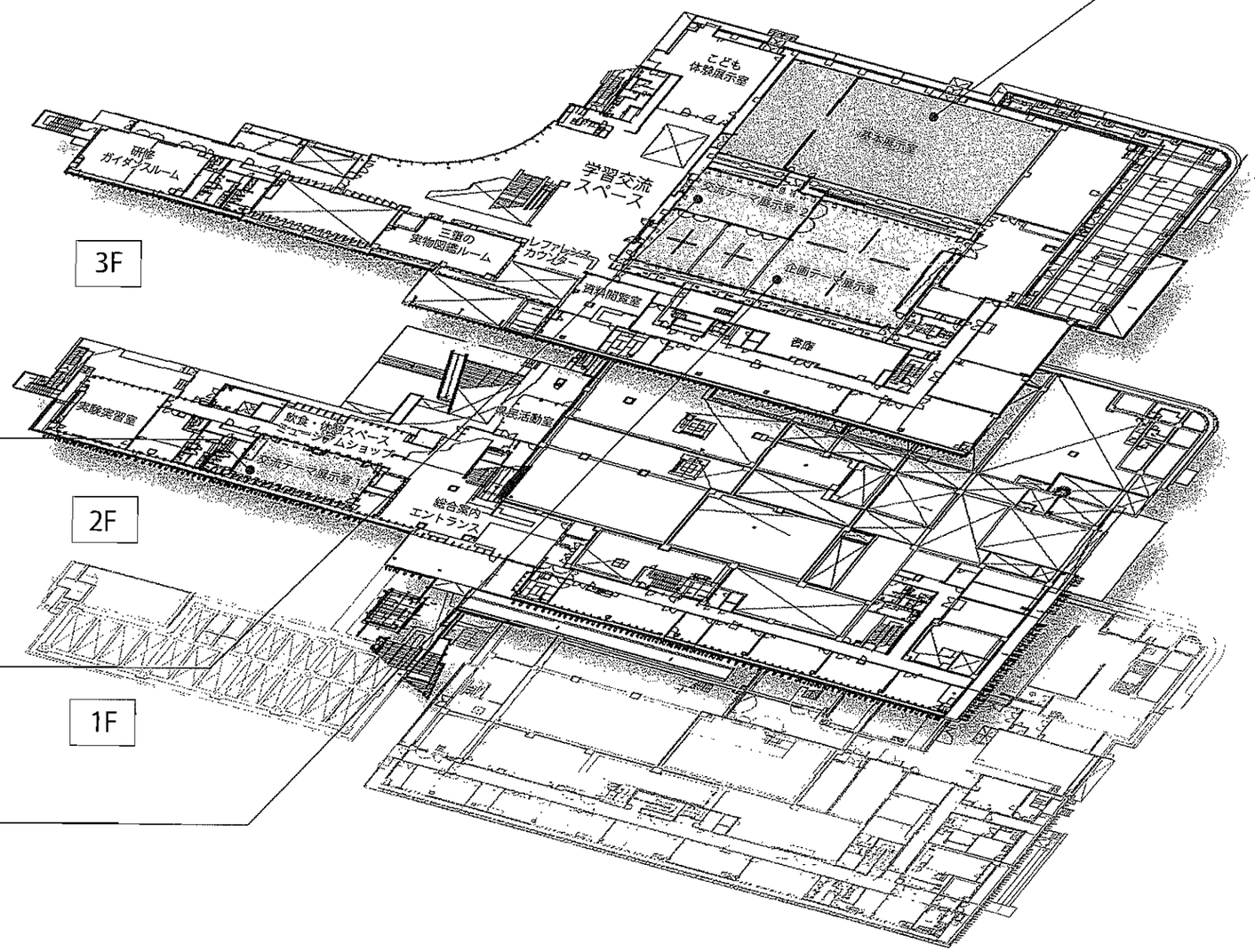
エントランスエリアに隣接する展示室。県民協創交流展などの多様な主体との交流展示や、ワークショップなど、柔軟に活用できる仕様。

交流テーマ展示室 2

交流テーマ展示室 1 と企画テーマ展示室の中間的な仕様設定の展示室。

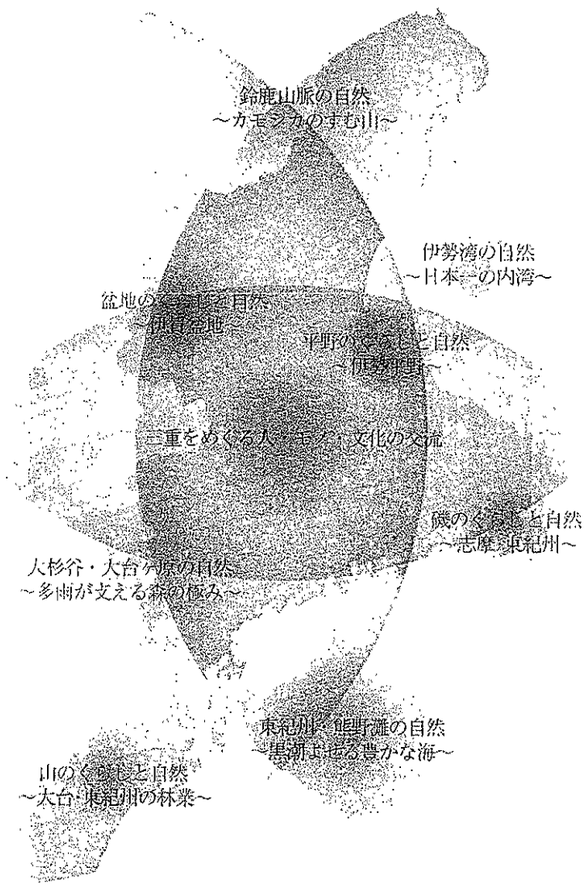
企画テーマ展示室

国宝・重要文化財などの指定文化財の展示にも対応できる展示室。可変型の区画により大小さまざまな規模・内容の展示が可能。



TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

展示5.	基本展示のイメージ



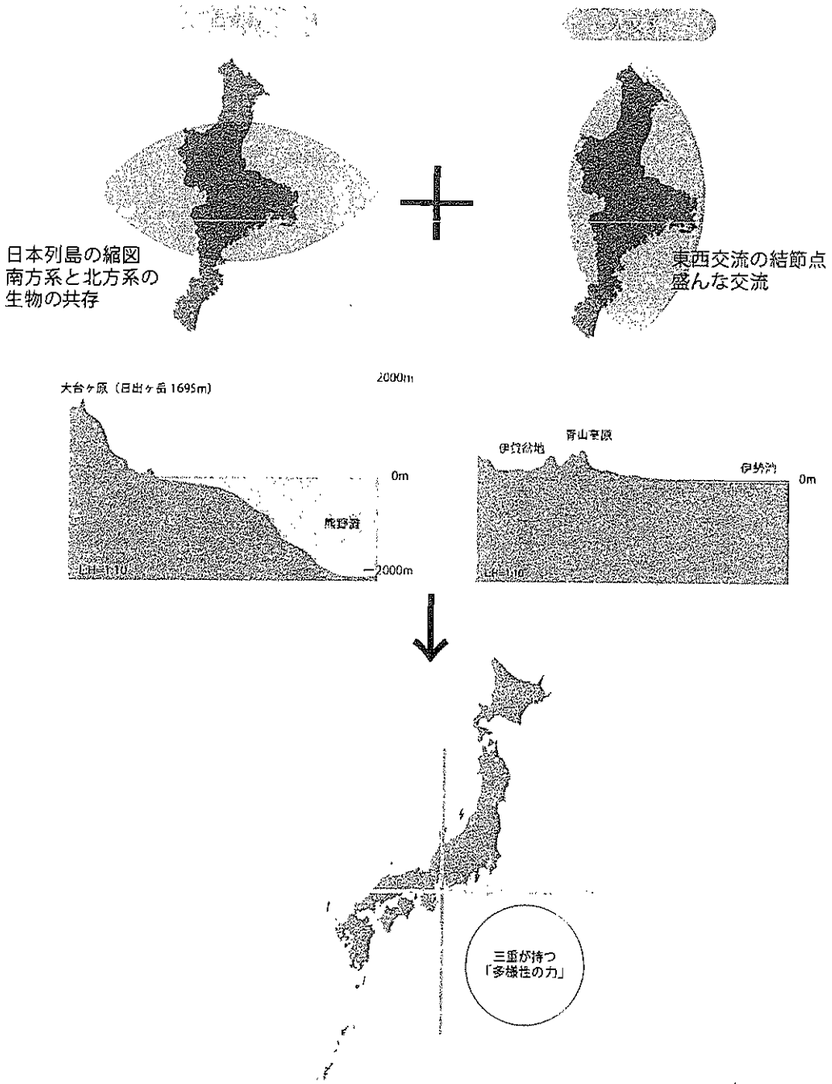
三重の多様で豊かな自然は
多様で豊かな歴史と文化を育んできました。

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

■基本的な考え方

多様で豊かな自然は、多様で豊かな歴史と文化を生み出し、育んできた。

日本列島のほぼ中央に位置する三重は、南北に長く、-2,000mの深海から標高1,700mもの山岳を含んださまざまな自然環境に囲まれた、まさに日本列島の縮図といえる多様で豊かな自然を有しています。その自然を背景に、三重では、特色ある地域文化と、活発な人やモノの交流が共存する独特の風土が育まれました。海と山の文化が出会う場所となり、古くからの交通の要衝として栄え、そして東西文化の結節点となったのです。
こうした三重の特色である自然と歴史・文化の「多様性」やその魅力をわかりやすく紹介し、「三重ってすごいところ!」を県内外に発信します。

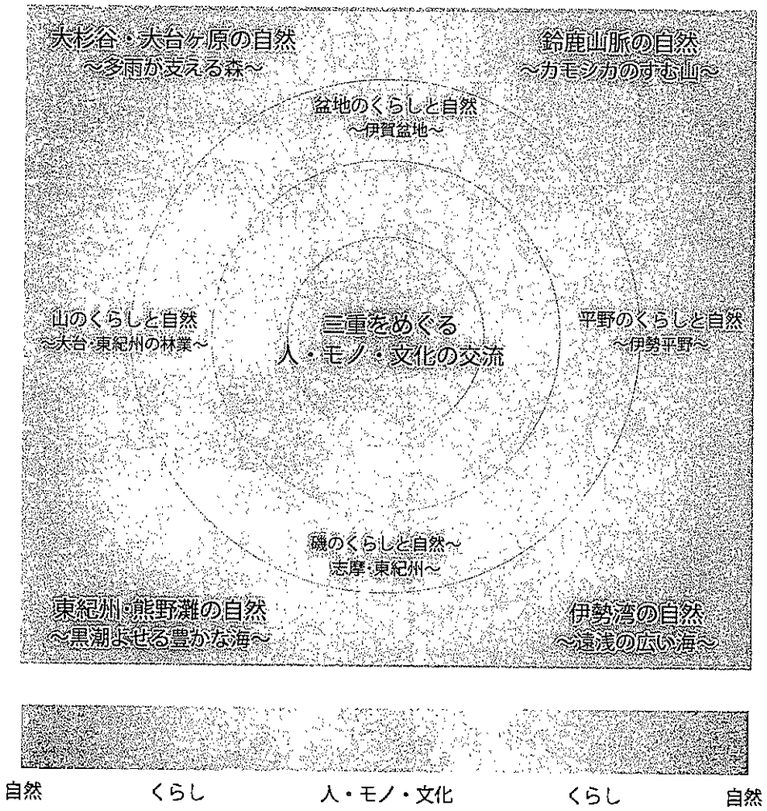


■ゾーニングの考え方

自然の中で人・モノ・文化が育まれた三重を、一つの空間で展開

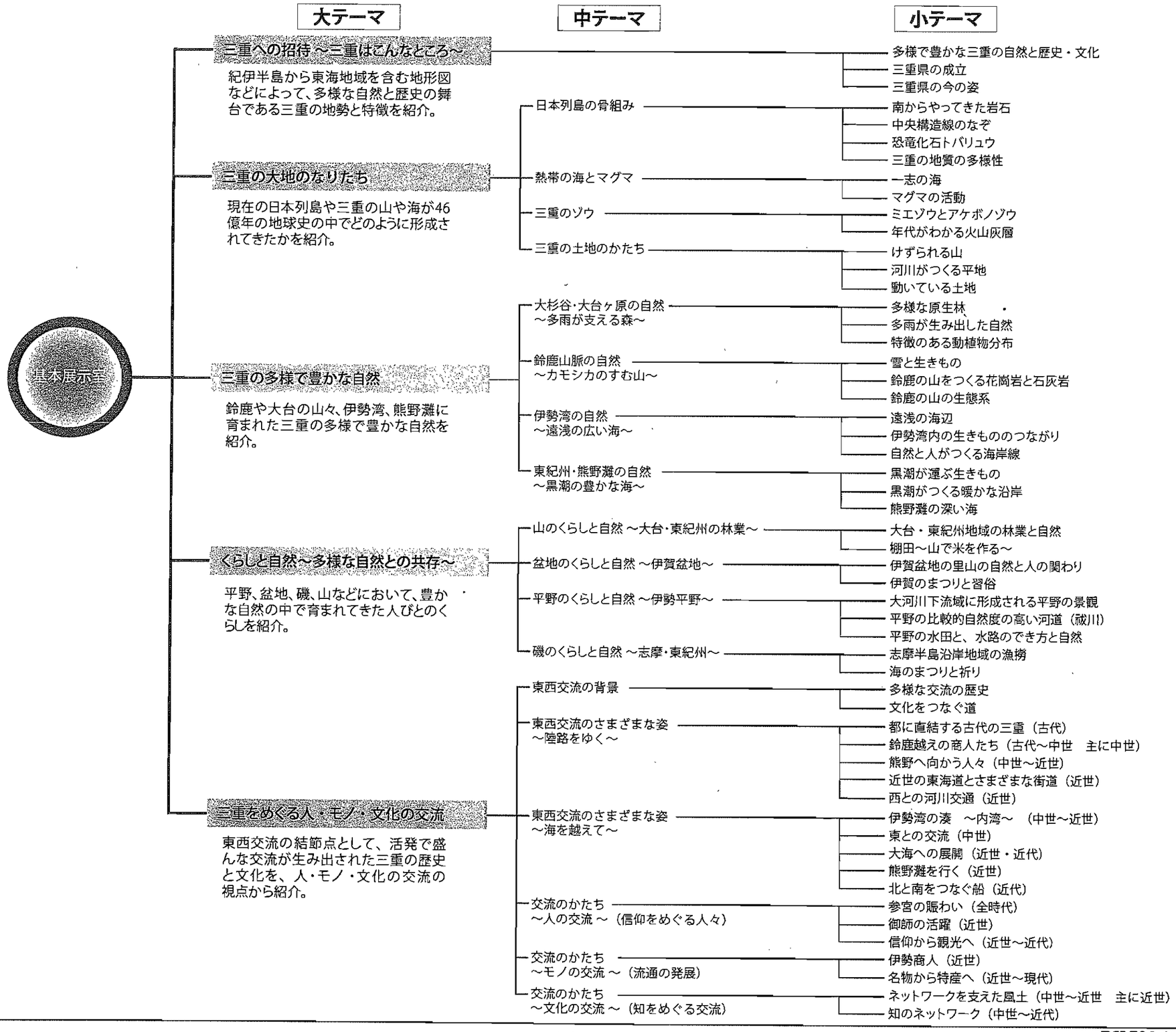
基本展示室は、大杉谷・大台ヶ原、鈴鹿山脈、伊勢湾、熊野灘に代表される三重の特徴的な自然環境を四隅に配置し、その中で育まれた人・モノ・文化の交流とその歴史を中央で展開します。また、盆地、平野、磯、山の４つの視点から人のくらしと自然の関わりを総合的に考えるコーナーを、それらの間に配置します。これらを大きな空間で一体的に紹介することで、三重の自然と歴史・文化を総合的にとらえ、表現します。

■基本展示室ゾーニングコンセプト

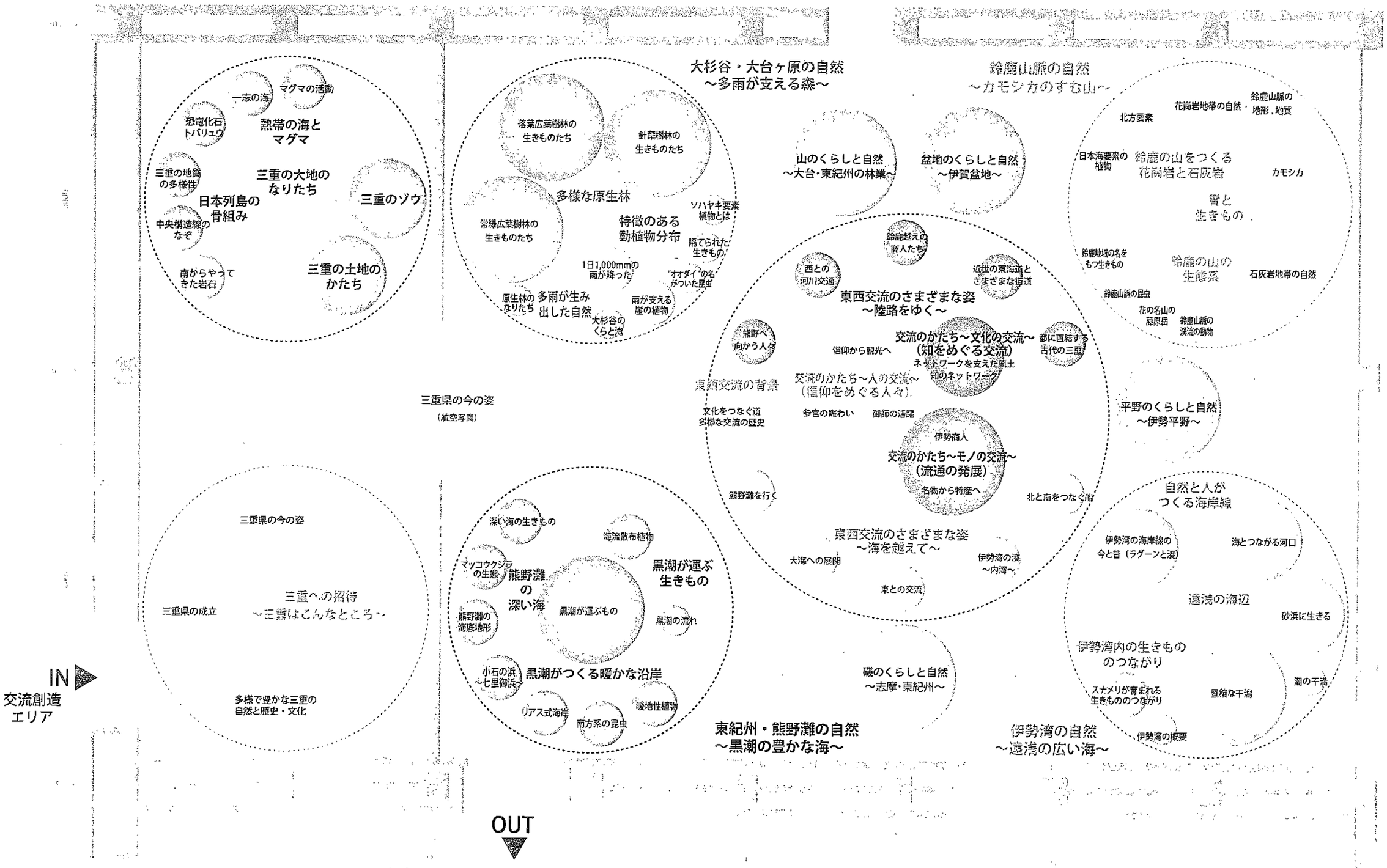


TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

展示7.	展示テーマの構成



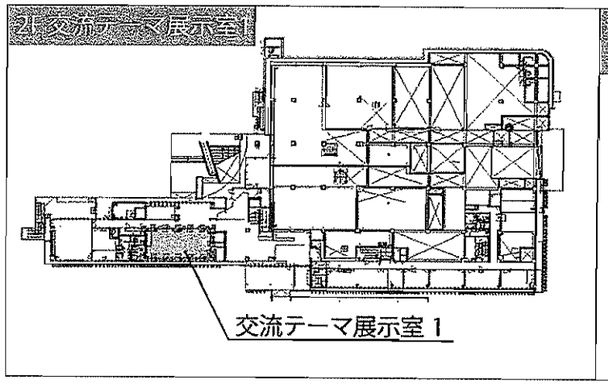
展示8.	基本展示室ゾーニング

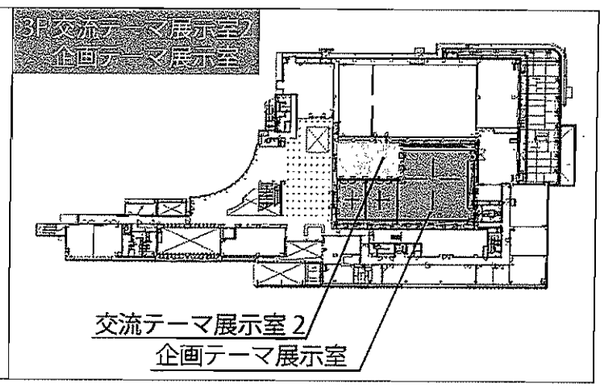


TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

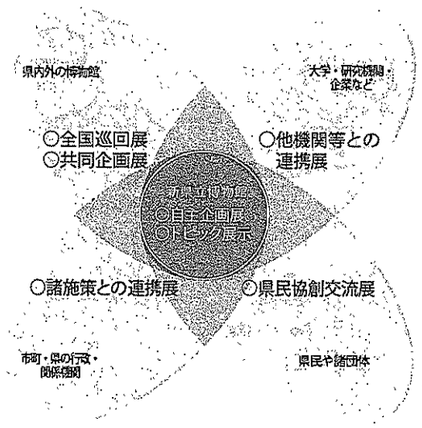
さまざまな展示を可能にするフレキシブルな空間

基本展示室と連動させ、大規模な全国巡回展や自主企画展、県民との協創交流展などの組み合わせで、多様な三重の魅力を幅広く紹介します。それぞれの展示内容や規模に応じて、大小さまざまな展示空間をつくりだします。3種類の仕様を持つ展示室を効果的に組み合わせ、多様な展示活動を展開します。また、交流テーマ展示室では、展示だけではなく、ワークショップなどの多彩な催しの会場として使用するなど、柔軟な活用を可能とします。





■さまざまな展示の展開例



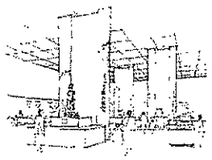
■テーマ展示室のテーマ例

企画展示（自主企画展・全国巡回展・共同企画展）

調査研究などの成果をベースに三重の自然と歴史・文化や、これにちなむ幅広い魅力を紹介する自主企画展や全国的な規模で行われる全国巡回展、共同企画展などを開催。

テーマ例

○「美し国・三重の至宝」三重の豊かな歴史・文化をあらわす国宝・重要文化財などの至宝を一堂に集めて紹介　など



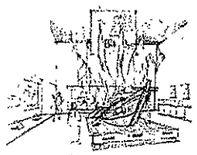
トピック展示

基本展示と連動・補完する展示。随時展示替えを行うことで、常に新しい三重の魅力を発信、発見。

テーマ例

○「クジラをめぐる人とまつり」

○「物語のなかの生きものたち」など



交流展示（県諸施策との連携展）

博物館の展示発信機能を生かした、県の諸施策などの発信。

テーマ例

○「三重の防災―地震・台風を記録した歴史資料から学ぶ―」

○「戦争の記憶―過去の経験から平和を考える」　など

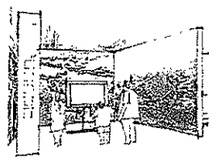
交流展示（県民協創交流展・他機関等との連携展）

県民や諸団体などとの協創による展示。県民協創交流展をはじめ、文化施設や大学、地場産業、企業などとの連携により実施。

テーマ例

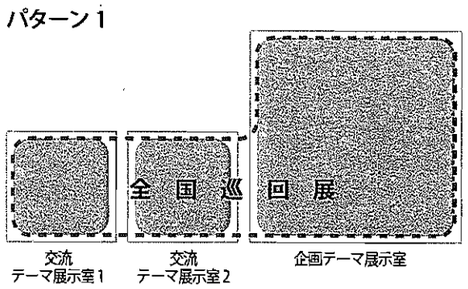
○県民参加型調査展「三重の里山を考える」

○諸団体との協創による展示「自然文化祭」など



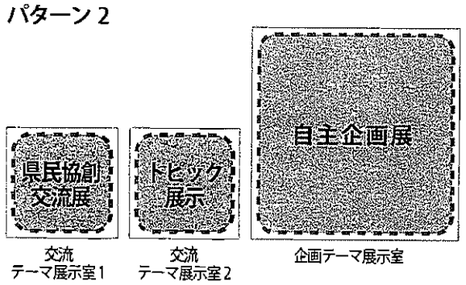
■テーマ展示室の展示展開パターン例　展示　ワークショップなどその他の催し

パターン 1



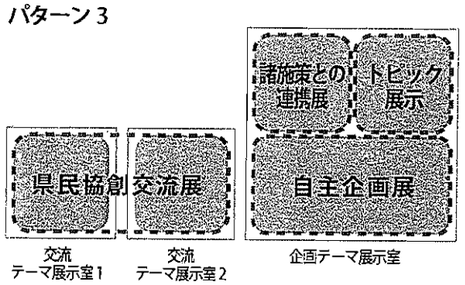
2 階・3 階のテーマ展示室全体で展開する全国巡回展の展開例。館全体で行う大規模な巡回展が可能です。

パターン 2



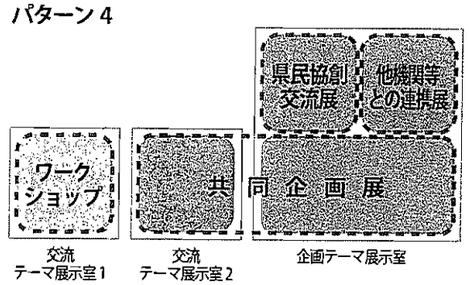
館の自主企画展と連動したトピック展示や県民協創交流展の例。共通のテーマをさまざまな視点や観点でみることができます。

パターン 3



フレキシブルに間仕切ることができるテーマ展示室を活用した例。さまざまな規模の企画展を同時開催することが可能です。

パターン 4



さまざまな団体や県民と行う連携展の例。幅広い活用が可能な交流テーマ展示室1では、展示だけでなく、ワークショップなども開催できます。

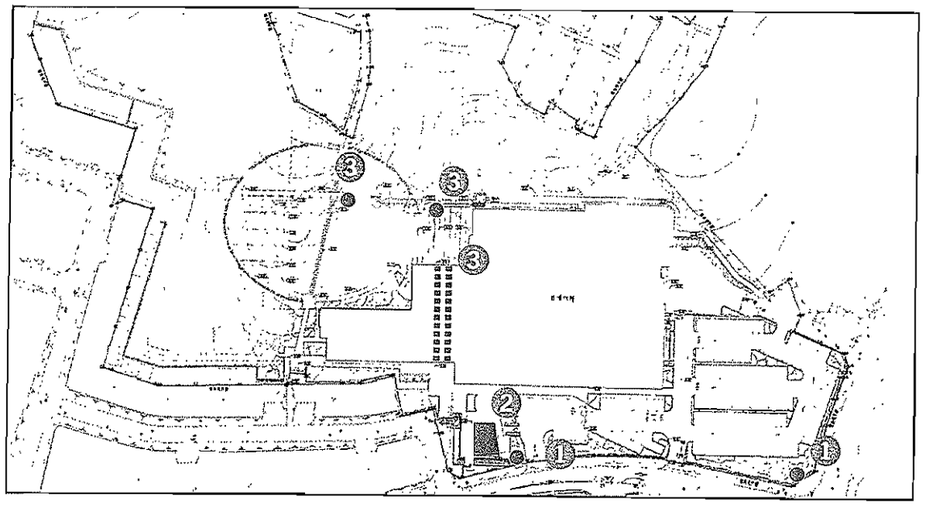
TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

■外構演出の考え方

博物館への期待感を高める演出

博物館の催しを紹介する楽しげな演出を施した情報掲示や、来館者の期待感を高める館内誘導案内を設置します。
外構や植栽には、県内各地の石材や三重にゆかりのある植物、学習に用いる植物などを配置することで、館内の展示とフィールドとをつなぐとともに、三重の自然と歴史・文化を考えるきっかけの場とします。

■外構



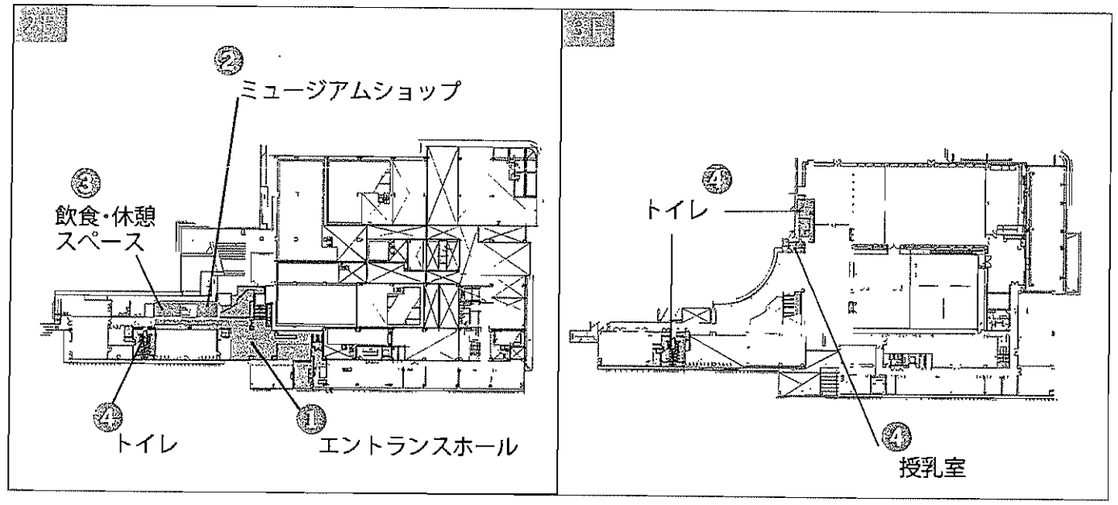
① 情報掲示機能	歩行者等に博物館の存在を知らせ、現在の主な催しなどを紹介する情報掲示案内 場所：交差点の角など
② 館内への誘導機能	来館者に館内への期待感を高める情報を案内 場所：正面大階段
③ 親しみやすい演出機能	敷地内各所に三重の魅力や楽しい博物館をイメージする演出を配置 場所：野外学習スペースや交流の広場内、1階ピロティなど

■館内演出の考え方

館内の各所に配置する三重の魅力と楽しさの演出

展示室だけでなく、交流創造エリアをはじめ、さまざまなところに三重の魅力を伝える県産材やデザインを積極的に活用します。あわせて、博物館らしさや楽しさを表現する演出や展示情報も各所に配置・紹介することで、気づきや展示資料への興味を呼び起こします。

■館内



① エントランスホール（2F）	博物館の顔として、わくわく感・期待感を高めるような演出
② ミュージアムショップ（2F）	博物館の刊行物、自然・歴史探求のための道具類、オリジナル商品、土産物などを販売
③ 飲食・休憩スペース（2F）	テーブルや椅子などにも三重の魅力と楽しさを演出 オオサンショウウオ飼育水槽も配置
④ トイレ・授乳室（2F・3F）	機能的になりがちなトイレや授乳室にも三重の魅力と楽しさを演出

展示11.	館内にとどまらない博物館活動

■野外展示

野外ならではの展示や活動を展開

敷地内の里山や交流の広場は、散策などでゆったりとすごすことができる空間とします。また、館内の展示との関連や周辺の環境に配慮し、三重にゆかりのあるものや地域に由来するもの、学習に用いるものなどの樹種や石材を配置し、野外ならではの活動を展開します。

里山

里山における人と自然の持続可能な関わりについて考える場

本来の里山環境を次世代に伝える取組を展開します。
県民・利用者のみなさんとともに里山の保全活動を展開します。

- 里山での自然観察
- 子どもたちが楽しく自然に接することができる活動

交流の広場

さまざまな活動を展開する場

三重を特徴づける植物や岩石を配置し、紹介します。広々とした心地よい広場で休憩を楽しむほか、さまざまな博物館活動や季節のイベントなどにも活用できます。

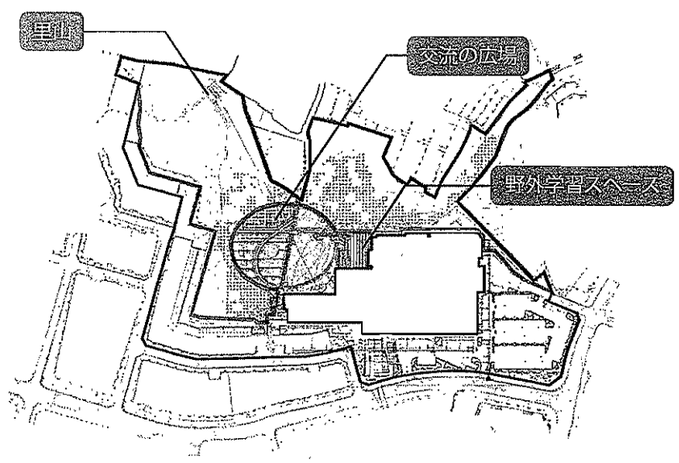
- 薬用や素材として人のくらしにかかわる有用植物や、三重にかかわる岩石や植物などを解説プレートやリーフレットで紹介

野外学習スペース

楽しげなオブジェを配置し、野外での活動を展開する場

テントや水場を備える自然に馴染んだ木立のステージとして、さまざまな野外展示やイベントを展開する場とします。

- 親しみやすく楽しいオブジェなども配置し、さまざまな野外活動を展開



■アウトリーチ活動

博物館との出会いや連携の場を各地域で展開

移動展示やフィールドワークなどのアウトリーチ活動を、各地域で展開すると同時に、活動先との連携を積極的に展開することで、博物館の活動を館外に広げます。

移動展示

館内での基本展示や自主企画展示・トピック展示などを、県内各地でも行うことにより、博物館への興味・関心を深めます。

学校連携

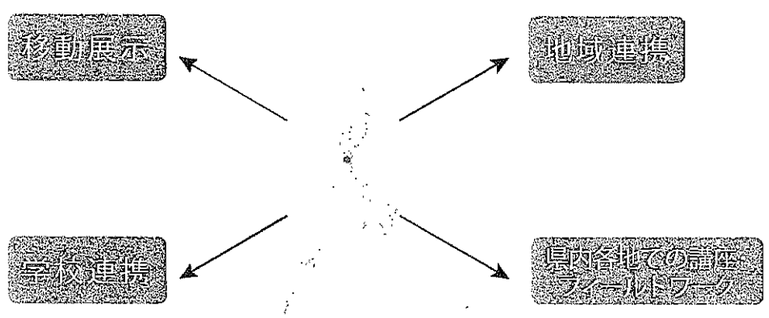
学校カリキュラムに沿った貸し出し用資料や、活用の手引きを作成するとともに実践事例を蓄積します。また、児童・生徒や教員と連携した調査研究活動を地域での展示活動等で発信します。

地域連携

地域の博物館との連携展や諸団体との地域共同調査研究、研究発表、展示などの発信活動を地域で展開します。

県内各地での講座・フィールドワーク

館内では行うことができない講座や自然観察などを県内各地で行い、地域の魅力の再発見につなげます。



TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

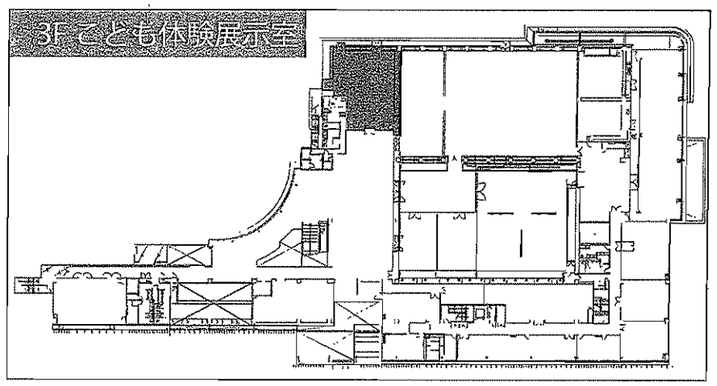
資 料 編

・交流創造エリア　参考-1～4
・展示エリア　参考-5～8

交流創造エリア	こども体験展示室のコーナーイメージ

子どもたちが博物館を好きになるきっかけとなる展示室

ミュージアムフィールドが望める展示室。天井高を生かし、開放的な空間とします。訪れた子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して、博物館の楽しさを知ることができる展示内容とします。



やってみる しらべる（調査・研究）

遊ぶ・楽しむを通して博物館資料への興味や不思議を体験し、探究心を広げるコーナーイメージ

ふしぎ?の森のフィールド
展示テーマごとに関連する展示内容や資料を五感に訴える仕掛けで紹介し、子どもたちが興味をもつきっかけ作りをする。

だれの足跡?だれのうんち?
動物や昆虫など生き物のうんちや足跡などの痕跡を床や壁の一部も使って表現。何の生き物かを問いかける。

くらべっこウォール
いろんな生き物たちと背くらべ、体力比べができる壁面展示。

のこす（収集・保存）

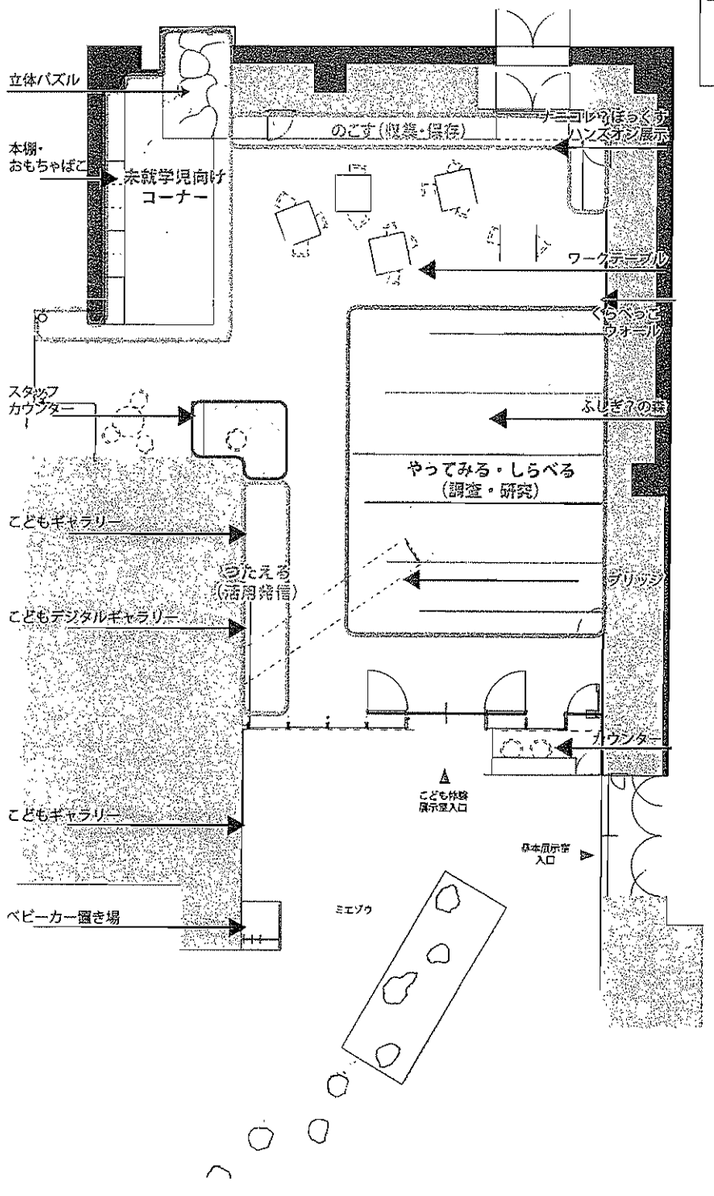
ハンズオン展示や活動を展開できるコーナーイメージ

なりきりファッションショー
動物の歩き方をまねてみたり、生き物になりきって技を体験してみる。

ナニコレ?ぼっくす
動物や昆虫、植物などの自然史系、考古、歴史、民具等の人文系、さらに博物館の保存活動に関する展示内容が詰まった BOX。年齢や興味によって使い分けることができ、内容も随時更新可能。

ワークテーブル
ナニコレ?ぼっくすや簡単な体験ができるスペース展開。

のこす、きろくする
保存する方法や、記録する技を体験する。



つたえる（活用発信）

体験の成果を展示したり発表できるコーナーイメージ

こどもアートギャラリー
こども体験展示室内でつくった作品などを展示。

デジタルギャラリー
さまざまな用途に活用できるタッチモニター。過去の子どもたちの感想を映したり、ワークショップなどにも利用できる。

未就学児向けコーナーイメージ

未就学児も安全に体験できるように、未就学児ゾーンと就学児ゾーンを設ける。

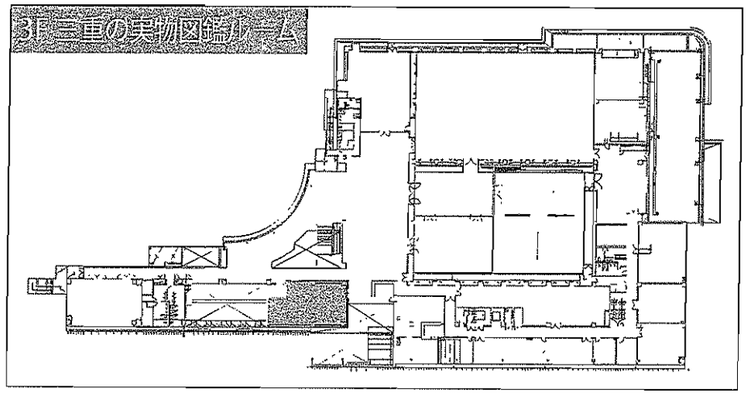
立体パズル
やわらかい素材でできた大きな立体パズルで遊べるスペース。
ソファのように腰掛けることもでき、保護者と一緒に絵本を読んだり遊んだりして、自由に過ごせる。

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

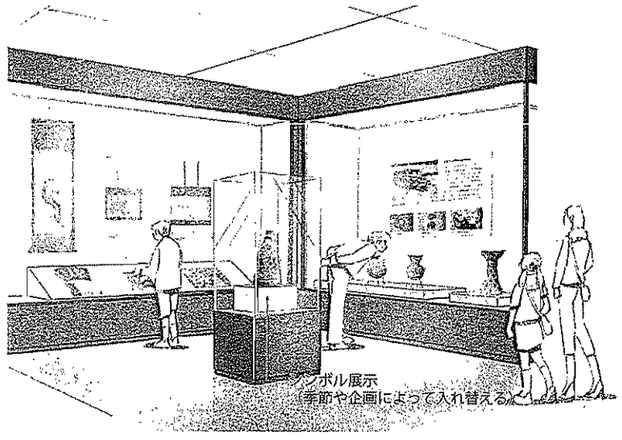
交流創造エリア	三重の実物図鑑ルームのコーナーイメージ

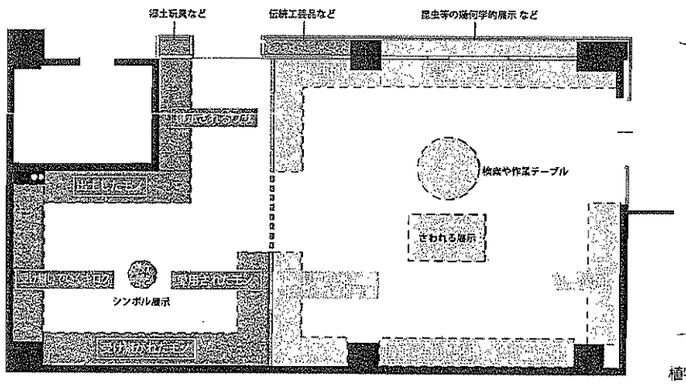
身近な三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を美しく、図鑑的に展示

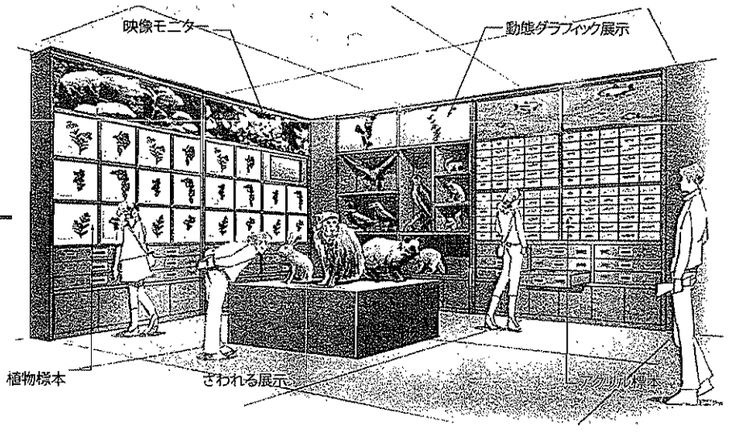
三重の歴史と文化に関する資料は、受け継がれてきた経緯とともに、資料の特徴を際立たせる美しい展示とします。資料保存の観点や季節・企画に応じた展示替えを行い、限られたスペースで多くの資料を紹介します。
三重の自然に関する資料は、図鑑的分類による展示に加えて、映像やグラフィックなど、動植物の生態を伝える展示手法や、身近な自然の展示、さわれる展示など、資料に興味をもってもらえるような展示とします。

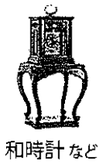
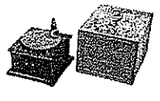


三重の歴史と文化に関する資料の展示コーナー







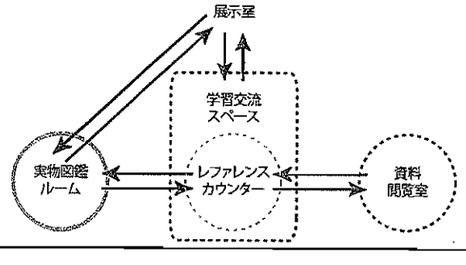
分類	出土したモノ	受け継がれたモノ	継承されるワザ	愛用されたモノ	受け継いでいくキロク
	出土した考古資料など	大切に保存されてきた美術工芸品など	伝え残すべき伝統工芸やその技など	日常的に使われてきた道具、民具など	保存されてきた記録資料や新たに保存する歴史的公文書など
展示資料（例）					
	須恵器 器台 など	和時計 など	縞帳 など	蓄音機 など	地租改正反対一揆関係資料 など

岩石・鉱石・化石類	昆虫類	貝類・甲殻類・その他無脊椎動物	魚類・両生類・爬虫類	鳥類・哺乳類	植物・菌類	さわれる展示
花崗岩	ギフチョウ	セキトリハッキガイ	ドジョウ	カワセミ	サカキ	ニホンジカ
サメの歯 など	オニヤンマ など	クモヒトデ など	アマガエル ヤマカガシ など	ニホンイタチ など	ハラタケ など	ニホンザル など

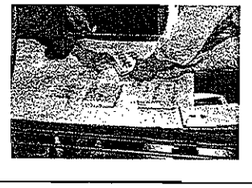
■展示室の特徴

他の諸室や資料相談、閲覧との連動

実物図鑑ルームの見学にとどまらず、レファレンスカウンターでの資料相談に連動した利用や、資料閲覧・活用のきっかけとなる部屋とする。



博物館資料の保存と継承

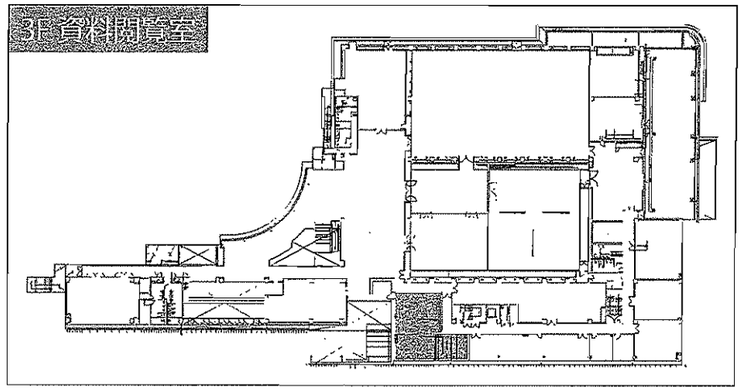


博物館の使命である「三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす博物館」の一役を担う部屋として、博物館にはどのような資料が収蔵され、どのように保存されているかを紹介することで、県民・利用者のみなさんとの協力による地域の貴重な資料の保存、継承の重要性を発信する。

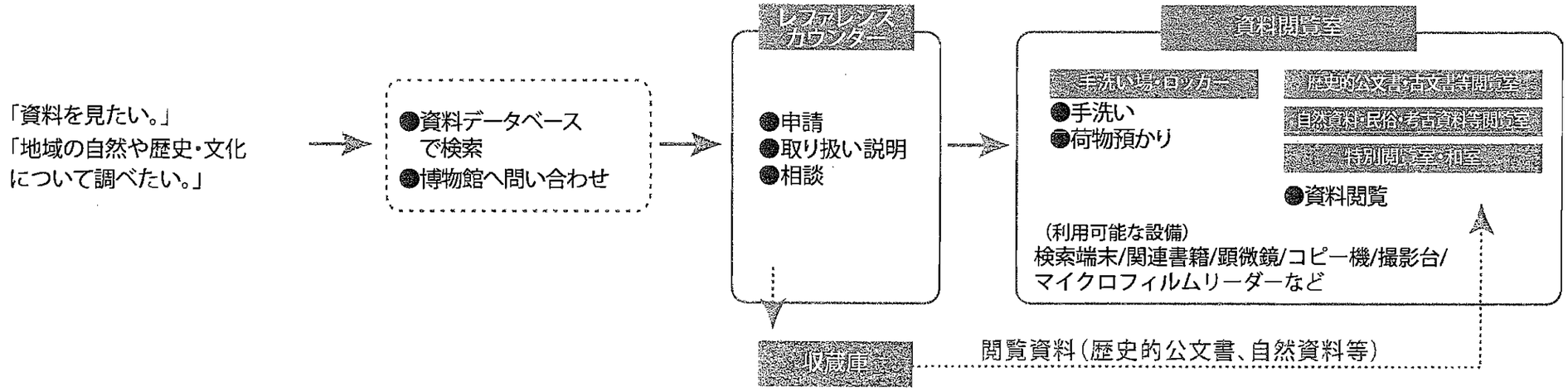
TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

保存している自然・人文資料（歴史的公文書等を含む）などを閲覧できる博物館

博物館で所蔵する資料については、資料保存への配慮を前提とした所定の手続きを行うことにより、県民・利用者のみなさんが、閲覧、研究活動やさまざまな情報収集に利用することができます。資料への影響を考慮し、資料の種別や性格によって閲覧室を区分します。

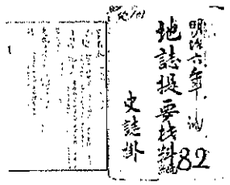


■資料閲覧活用のイメージ

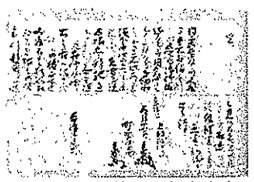


■資料閲覧室の構成

歴史的公文書・古文書等閲覧室


地誌提要材料編

三重県庁の歴史的公文書（選別公文書と明治期県庁文書・絵図など）、古文書や冊子・版本などの文献史料、版画や絵巻などの絵画資料など、主に紙媒体の資料を閲覧することができる。


伊藤又五郎家文書

熊野本地絵巻

自然資料・民俗・考古資料等閲覧室

ノコギリシダ

タガメ

化石・鉱物などの地学標本資料、動・植物の標本資料などの自然系資料、民俗・考古・陶磁器などの人文系の器物資料を閲覧できる。

須恵器 提瓶

特別閲覧室・和室

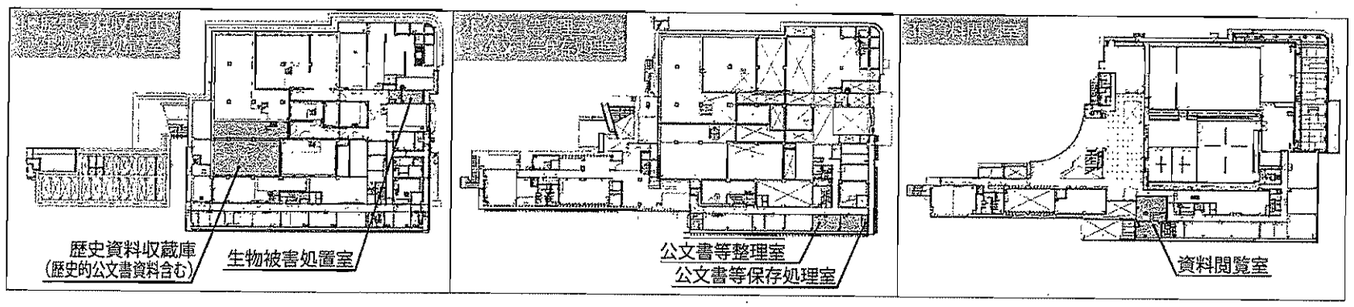
本居宣長像

軸物や屏風・大型絵図など、机上で扱うことが困難な資料、特別な配慮が必要な資料の閲覧、団体や行政機関等の特別な閲覧に使用する。

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

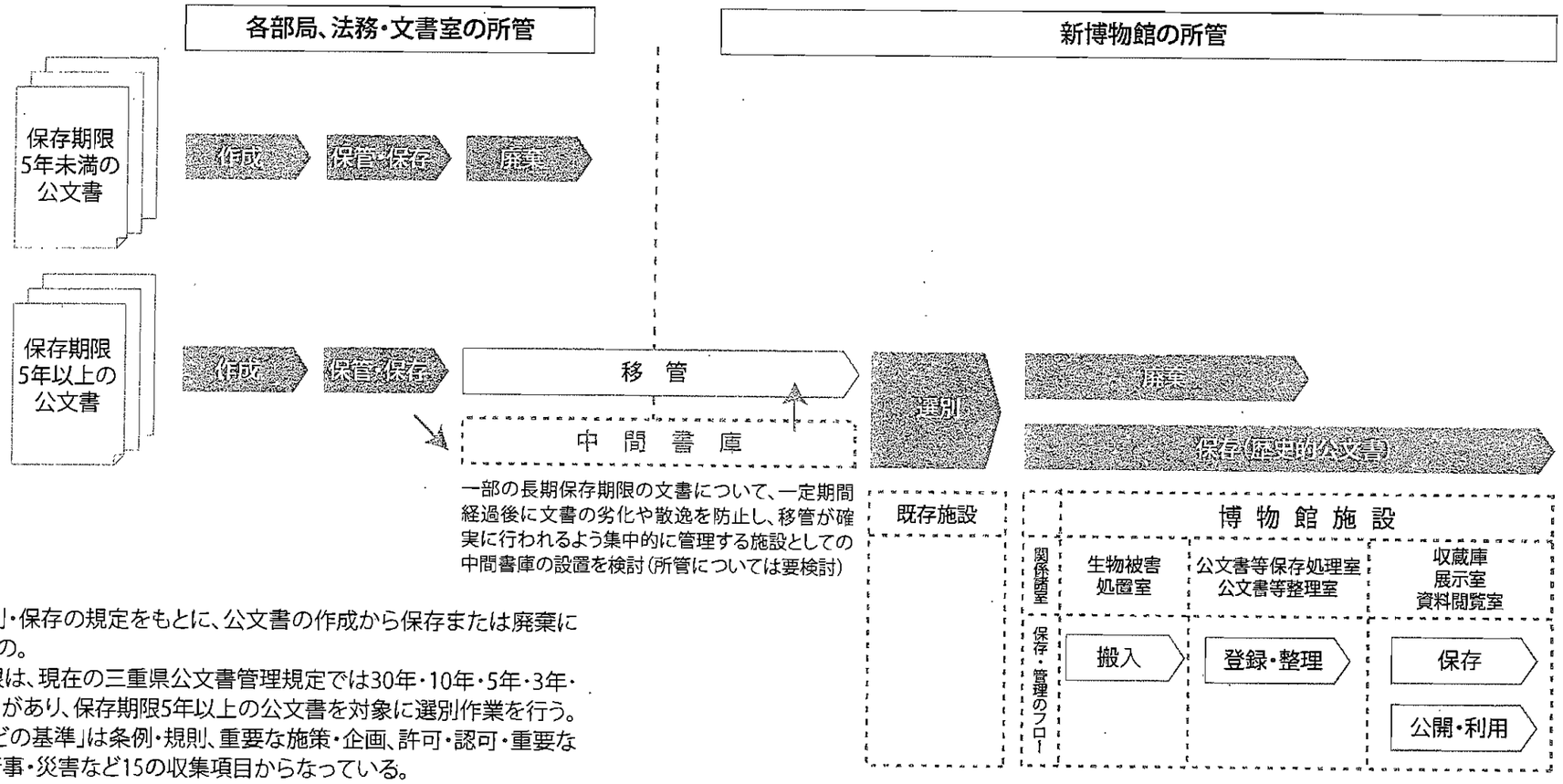
歴史資料として重要な公文書等を保存、閲覧、調査研究する公文書館機能を一体化した博物館

公文書館法に基づき、歴史資料として重要な公文書等（「歴史的公文書」）を保存し、広く一般に公開する施設としての機能を持ち、併せて博物館の資料として活用することで、三重の文化振興に役立ち、より幅広い博物館活動を促進します。



＜歴史的公文書の保存・公開の流れ＞

保存対象資料を選別するための作業は、既存の施設（博物館外）を活用することとし、選別を終えて保存することが決まった歴史的公文書を博物館に搬入、1階の生物被害処置室で殺虫処理のあと、2階の公文書等保存処理室、公文書等整理室で整理作業等を行う。1階の収蔵庫（人文系資料・歴史資料収蔵庫等）で保存し、保存された歴史的公文書等は、3階の資料閲覧室で利用に供する。ただし、歴史的公文書は情報公開条例の対象外であり、閲覧・公開にあたっては、規定などの整備が必要となる。



※本図は現行の公文書選別・保存の規定をもとに、公文書の作成から保存または廃棄にいたる工程を想定したもの。
※歴史的公文書の保存期限は、現在の三重県公文書管理規定では30年・10年・5年・3年・1年および1年未満のものがあり、保存期限5年以上の公文書を対象に選別作業を行う。
※「選別保存する公文書などの基準」は条例・規則、重要な施策・企画、許可・認可・重要な契約、行政区画、重要な行事・災害など15の収集項目からなっている。

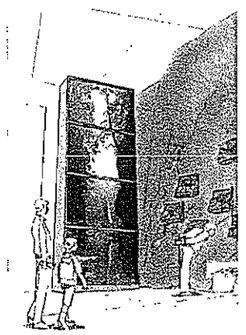
TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

子どもから大人まで、興味から知る喜び、参加する楽しみにつながる展示

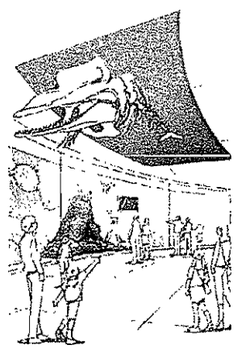
「きれいだね」「大きいね」といった驚きや感動など、体感的な展示を通して興味や関心を引き、「そういうことなんだ!」という納得や理解につなげます。さらにさまざまな活動と連携した内容の展示とすることで、館内での活動プログラムや地域での活動に参加するきっかけとなる展示とします。

感じる展示

多様で豊かな自然や多彩な交流を空間体験を通して、体感的に伝える展示。



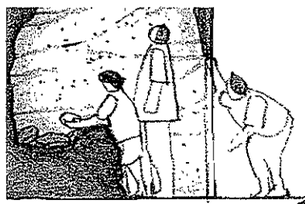
「大杉谷・大台ケ原の自然」のイメージ



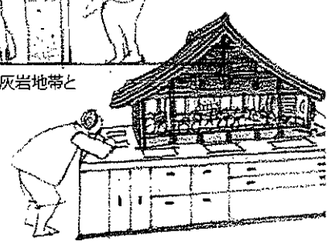
「東紀州・熊野灘の自然」のイメージ

知る・つながる展示

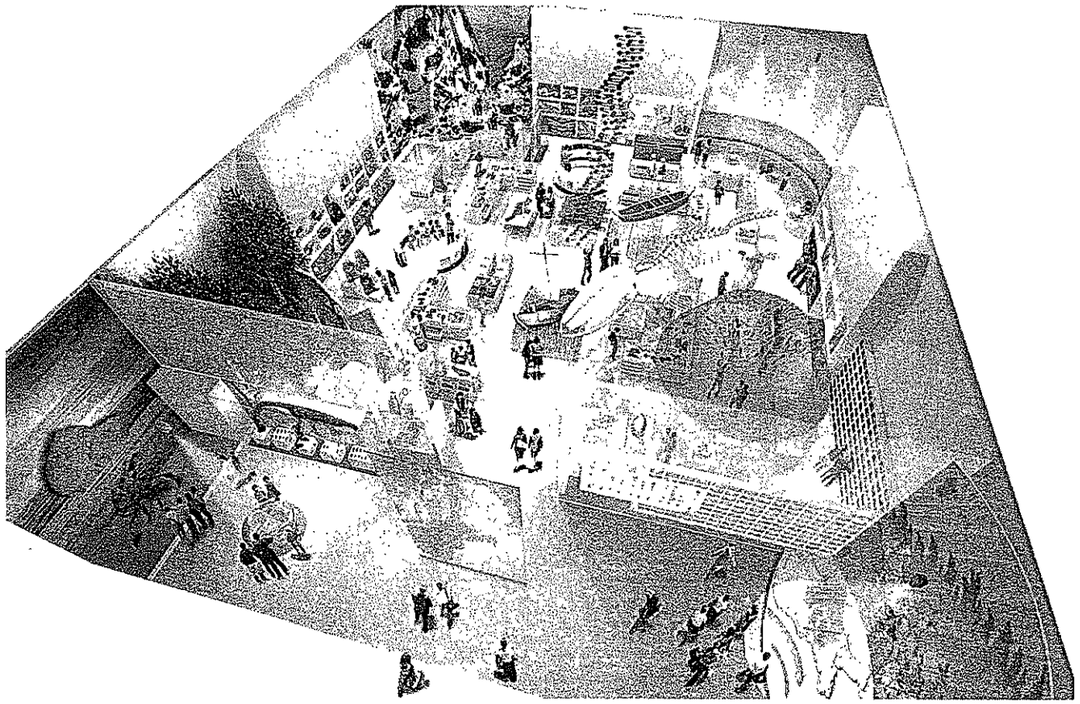
ハンズオンなど身体感覚に訴える展示手法や、現在の私たちの身の回りとの比較を通して、より身近に感じてもらう展示。



「鈴鹿山脈北部の石灰岩地帯と洞穴」のイメージ



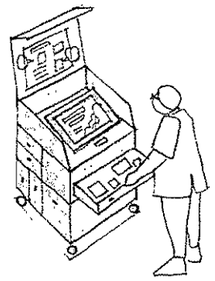
「伊勢参宮の人々をもてなした御師屋敷の復元模型」のイメージ



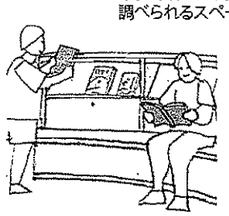
基本展示室の展示イメージ

調べる・参加する展示

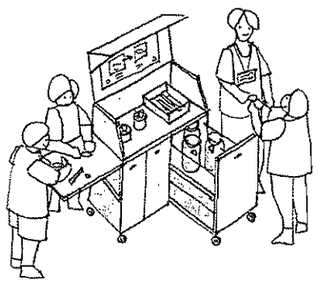
展示室内に三重の自然と歴史・文化に関する情報・書籍コーナーを配置。県民から集まった最新の地域情報を調べたり、書籍を閲覧できる。展示に関するワークショップを実施し、地域とつながる。



「県民から集まった最新の地域情報が調べられるスペース」のイメージ



「各コーナーのテーマをより深く知るための書籍と閲覧スペース」のイメージ



「基本展示室内でのワークショップ」のイメージ

【大テーマ１】　三重への招待～三重はこんなところ～

日本列島のほぼ中央に位置する三重は南北に長く、-2,000mの深海から標高1,700mもの山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれている。多様で豊かな自然は、まさに日本列島の縮図といえるもので、その自然を背景に、特色ある地域文化と、活発な人やモノの交流が共存する独特の風土が育まれた。三重は海と山の文化が出会う場所となり、古くからの交通の要衝として栄え、そして東西文化の結節点となった。

ここでは、基本展示室の導入として、こうした三重の特色である自然と歴史・文化の多様性の魅力を感覚的に紹介するとともに、現在の私たちが住む三重県の姿を示す。

【1-1-1】多様で豊かな三重の自然と歴史・文化
【1-1-2】三重県の成立
【1-1-3】三重県の今の姿

【大テーマ２】三重の大地のなりたち

現在の日本列島や三重の山や海が46億年の地球史の中でどのように形成されてきたかを紹介する。また、46億年の主な地質的な事がらも紹介する。

【2-1】　日本列島の骨組み

地球の表層はプレートと呼ばれるいくつかの大きな岩板で覆われており、大陸や海洋底を構成している。これらのプレートは、海底火山での形成と移動、海溝での地球内部への沈み込みなどの動きをしている。日本列島の骨組みもこのプレートの動きの中で形成されたと考えられており、ここでは、南方からやってきた海底をつくるプレートが日本付近の海溝に沈む際、その一部が剥ぎ取られて陸地を形成していくしくみを、いろいろな岩石から紹介する。また、三重県中部を横切る日本で最大級の断層である中央構造線のでき方とその意味などを紹介するとともに、鳥羽で発見されたトバリュウが、この地域から見つかる理由や、同時に発見される貝や植物の化石や地層のようすから推定される古環境をプレートの動きとともに紹介する。

【2-1-1】南からやってきた岩石
【2-1-2】中央構造線のなぞ
【2-1-3】恐竜化石トバリュウ
【2-1-4】三重の地質の多様性

【2-2】　熱帯の海とマグマ

現在の津市から松阪市にかけての地域に分布する一志層群とよばれる地層は、およそ1850万年前から1400万年前（新生代新第三紀中新世）にこの地域に存在した海（一志の海）に堆積した地層である。厚さ1,100m、大きく３つの地層に分けられ、多種多様な化石が多数発見されている。それぞれの地層から発見された化石を展示し、一志の海の環境の移り変わりを紹介する。また、およそ1400万年前に、近畿地方では地下の深部に発生したマグマが活動を始め、火山の噴火がおこったり、地下ではマグマが固まっていったりしたことにより形成された岩石の特徴を紹介するとともにその活動の歴史を紹介する。

【2-2-1】一志の海
【2-2-2】マグマの活動

【2-3】　三重のゾウ

かつてゾウの仲間が日本にも生息していたことが、全国から発見されるゾウ化石からわかっている。三重県からも多くのゾウ化石発見されており、それらの中で今からおよそ430万年前から100万年前（新生代新第三紀鮮新世から第四紀更新世）に生息していた三重県で最初の化石が発見されたミエゾウとミエゾウから進化したと考えられるアケボノゾウを紹介する。また、これらのゾウ化石と同時に発見される貝・昆虫・植物・脊椎動物などの化石から当時の古環境の推定し比較する。さらにミエゾウからアケボノゾウへの進化を中心に、現在のゾウにつながるゾウ類の系統を紹介する。

【2-3-1】ミエゾウとアケボノゾウ
【2-3-2】年代がわかる火山灰層

【2-4】　三重の土地のかたち

三重県の地質の特徴は、東西方向にのびた地層や岩石が帯状に配列していること、中央構造線をはじめ、多くの断層が県内各地に分布していることなどがあげられる。一方、熊野灘沿岸のリアス式海岸や大台ヶ原にみられる準平原など、現在の三重県にはさまざまな地形がみられる。これらの地形は、地質を反映した地形に隆起・沈降の運動や侵食・堆積などの作用や気候変動が加わって形づくられてきたことを紹介する。

【2-4-1】けずられる山
【2-4-2】河川がつくる土地
【2-4-3】動いている土地

【大テーマ３】　三重の多様で豊かな自然

鈴鹿や大台の山々、伊勢湾、熊野灘に育まれた三重の多様で豊かな自然を紹介する。

【3-1】　大杉谷・大台ヶ原の自然～多雨が支える森～

日本で見られる原生林(極相林)は主に常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、針葉樹林である。しかし、日本ではそのほとんどが人のくらしの中で手が加えられた二次林となっており、原生林はごく限られた場所に存在するにすぎない。

しかし、ここに紹介する大杉谷と大台ヶ原は、人のくらしとははなれた深山であることと、大杉谷の深い谷から県内最高峰である日出ヶ岳(1,695m)をはじめとする大台ヶ原山系に至る標高差により生まれる気温差のため、上記の３タイプの原生林を狭い範囲で見ることができる希有な場所となっている。また、全国有数の多雨地域であるため、崖などに特有の植生が発達する。

ここでは長い年月を経て形成された３種類の原生林と多雨環境を中心に、三重の多様な生態系の一つの極みを紹介する。

【3-1-1】多様な原生林
【3-1-2】多雨が生み出した自然
【3-1-3】特徴のある動植物分布

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

【3-2】　鈴鹿山脈の自然～カモシカのすむ山～

鈴鹿山脈は本州のほぼ中央部に位置し、本州が最もくびれたところにあるため太平洋側と日本海側の気候が相互に影響し合った複雑な気候条件となっている。そこに生息する生物もこの気候条件により複雑で多様な様相を示している。鈴鹿山脈北部には石灰岩が分布し、南部には花崗岩が広い範囲に分布していて、地質が異なる。２種類の岩石の分布域では生息する生物に影響を与えている。さらに、鈴鹿山脈の三重県側はその成因から、平野部から屏風のように山脈がそそり立つため、急な斜面ではあるが、奥深さがなく昔から、人の営みとかかわりやすい山域となっていたことなども含めて紹介する。

【3-2-1】雪と生きもの
【3-2-2】鈴鹿の山をつくる花崗岩と石灰岩
【3-2-3】鈴鹿の山の生態系

【3-3】伊勢湾の自然～遠浅の広い海～

伊勢湾は、日本で最大級の面積をもつ有数の内湾であるが、水深は浅く、湾口部が狭いなど、東京湾や大阪湾とは異なる特徴をもっている。海岸線は人の手によって姿を変えつつあるが、自然の砂浜や干潟が各所に残されており、これらは希少な動植物の生息場所ともなっている。干潟は、貝類やゴカイ類が生息し、渡り鳥にとって重要な渡来地となっているとともに、水の浄化にも大きな役割を果たしている。砂浜には希少な植物や昆虫類が生息するとともに、ウミガメの産卵場所ともなっていることなど、その重要性を示す。

一方、伊勢湾内には魚や貝などさまざまな生きものが生息している。これらの生きものは、食う食われるという食物連鎖によってつながっているとともに、人のくらしともつながっていることを示す。

【3-3-1】遠浅の海辺
【3-3-2】伊勢湾内の生きもののつながり
【3-3-3】自然と人がつくる海岸線

【3-4】　東紀州・熊野灘の自然～黒潮よせる豊かな海～

熊野灘に面する東紀州の沿岸は、山が海までせまるリアス式海岸で特徴づけられているとともに、熊野灘には黒潮が流れ、南方の生きものをこの地域に運び込むと同時に、多雨や陸上に温暖な気候もたらしている。黒潮の流れにのってやってくる魚をはじめとするさまざまな生きもののほか、沿岸地域にみられる暖地性の植物や昆虫など、この地域に特徴ある生物相を紹介する。また、伊勢湾とは異なる熊野灘の深い海の様相をそこに生息する生きものとともに紹介する。

【3-4-1】黒潮が運ぶ生きもの
【3-4-2】黒潮がつくる暖かな沿岸
【3-4-3】熊野灘の深い海

【大テーマ４】　くらしと自然～多様な自然との共存～

三重には、山地、丘陵、平野、盆地、磯、砂浜など実にさまざまな地形が展開している。人々は、主に、平野や盆地、海浜や山間に居住し、それぞれの地域の豊かな自然の中で、特色あるくらしが育まれてきた。

ここでは、人々のくらしの舞台となっている山、盆地、平野、磯の４つの地域に焦点をあて、それぞれ地域における人と自然の関わりについて考える。

【4-1】　山のくらしと自然～大台・東紀州の林業～

雨が多く、広大で豊かな森林資源を背景に、そこで培われた林業の発展と変遷を紹介するとともに、自然環境と生業の密接な関わりとこれからのあり方を考える。また、山で生活する人々のくらしと営みをとおして、地域で育まれてきた知恵と技術も紹介する。

【4-1-1】大台・東紀州地域の林業と自然
【4-1-2】棚田～山で米を作る～

【4-2】　盆地のくらしと自然～伊賀盆地～

周囲を山々に囲まれた伊賀盆地は、丘陵によってさらに多くの小盆地に区分されている。小盆地間に介在する丘陵は、伊賀に暮らす人々にとって身近な里山となっている。そこには、里山・湿地・ため池による良好な里山の景観が見られ、人との関わりの中でさまざまな生きものが生息している。

また、古来、伊賀は畿内との交流や結びつきが深く、その豊富な山林資源は大寺院の造営などに供給されてきたが、その枯渇と保全など自然に対する人の長い関わりの中で、現在みられる里山が形成されてきた。

ここでは、伊賀盆地の里山の自然と人々の関わりの歴史と、里山の自然やくらし・文化の様相を紹介することにより、疎遠になりつつある里山を見つめ直す契機とする。

【4-2-1】伊賀盆地の里山の自然と人の関わり
【4-2-2】伊賀のまつりと習俗

【4-3】　平野のくらしと自然～伊勢平野～

伊勢平野の中でも櫛田川下流・祓川流域をとりあげ、「河川下流域における人と自然の関わりの中で形成されてきたくらしと二次的自然」の展示を行う。この地域は，古代中世の土地区画、条里の名残である農業用の土水路や自然堤防の河畔林をもつ小河川など多様な河道景観が残る全国的にも貴重な地域である。また、斎宮や平安時代の荘園である東寺領大国荘の記録から、古代中世における自然と人の関わりを知ることができる。ここでは平野における水を中心とした自然と人々のくらしの関係と、その展開に生物はどのように対応してきたかを展示し，平野の自然に対する人間のこれからの関わり方を考える契機とする。

【4-3-1】大河川下流域に形成される平野の景観
【4-3-1】平野の比較的自然度の高い河道（祓川）
【4-3-1】平野の水田と、水路のでき方と自然

【4-4】磯のくらしと自然～志摩・東紀州～

小さな島、岬、入り江の多いリアス式海岸が発達した地形の志摩半島沿岸地域では、豊かな海の幸に恵まれ、古来からさまざまな漁法でそれらを得てきた。この地域の特徴ある漁業について紹介するとともに、自然の厳しさへの畏敬の念から生まれた、漁の安全や豊漁を祈るまつりや、慣習などについて紹介する。

【4-4-1】志摩半島沿岸地域の漁撈
【4-4-2】海のまつりと祈り

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

【大テーマ５】　三重をめぐる人・モノ・文化の交流

三重は紀伊半島東部に位置し、東は伊勢湾・熊野灘に開く。陸路は山を越えてこの地に集まり、海はハイウェイとなって東国への窓口を開く。東西交流の結節点であり、また、伊勢神宮が鎮まり、熊野三山とも結ばれ、活発で盛んな交流が生み出された三重の歴史と文化を、人・モノ・文化の交流の視点から紹介する。

【5-1】　東西交流の背景

盛んな東西交流の背景となった三重の地の特質は、地形や地勢に影響を受けた特色ある地域文化圏どうしの近距離交流や、京や江戸との遠距離交流によって形成された。ここでは多様な交流の歴史の概要と、それを可能にした要因を紹介する。

【5-1-1】多様な交流の歴史
【5-1-2】文化をつなぐ道

【5-2】　東西交流のさまざまな姿～陸路をゆく～

古来、都と東国をつなぐ主要な陸路は三重の地を経由し、また、三重の地には伊勢や熊野という信仰・交流上の拠点も存在した。このため、古くからの都との繋がりが深く、また、全国から多数の人々が伊勢や熊野をめざして訪れ、多くの人々の交流が生まれた。

ここでは、都と直結する地、商人たちの交易路、熊野へ向かう人々、整備された街道網による交流、内陸水運の５つの視点から陸路を巡る交流史を紹介する。

【5-2-1】都に直結する古代の三重　（古代）
【5-2-2】鈴鹿越えの商人たち　（古代～中世　主に中世）
【5-2-3】熊野へ向かう人々　（中世～近世）
【5-2-4】近世の東海道とさまざまな街道　（近世）
【5-2-5】西との河川交通　（古代～近世）

【5-3】　東西交流のさまざまな姿～海を越えて～

熊野灘などの外洋に面し、また、わが国最大級の内湾である伊勢湾を擁する三重の地は、陸路と海路の結節点でもあった。外洋に面するリアス式海岸の志摩から熊野の港や、穏やかな伊勢湾西岸のラグーン（潟湖）に立地した多数の湊は、海を媒介とする交流の中で大きな役割を果たしてきた。中世末からの大航海時代には遠くアジアへと進出した伊勢商人もみられる。

ここでは、内湾の湊、志摩と関東の交易、太平洋沿岸交易の拠点、さらに海外への展開と地域間交流という４つの視点から、海路をめぐる交流史を紹介する。

【5-3-1】伊勢湾の湊～内湾～　（中世～近世）
【5-3-2】東との交流　（中世）
【5-3-3】大海への展開　（近世・近代）
【5-3-4】熊野灘を行く　（近世）
【5-3-5】北と南をつなぐ船　（近代）

【5-4】　交流のかたち～人の交流（信仰をめぐる人々）～

三重をめぐる交流史のピークともいえる近世の参宮を取り上げ、おかげ参りや御師による参宮斡旋などを中心に、全国の人々が三重を訪れ、さまざまな交流が生み出された様子を紹介する。さらに、それらが伊勢志摩観光へと展開した状況にも触れる。

【5-4-1】参宮の賑わい（全時代）
【5-4-2】御師の活躍　（近世）
【5-4-3】信仰から観光へ　（近世～近代）

【5-5】　交流のかたち～モノの交流（流通の発展）～

東西日本の結節点としての地理的な特質、伊勢神宮の存在、地域産業の発達などの歴史的な条件を背景に伊勢商人が生まれ、また、各地で伊勢ブランドも生まれた。

ここでは、東日本と西日本をつなぐ商人として、近世の日本経済をリードした伊勢商人を中心にして活発なモノの交流を紹介する。

【5-5-1】伊勢商人　（近世）
【5-5-2】名物から特産へ　（近世～現代）

【5-6】　交流のかたち～文化の交流（知をめぐる交流）～

伊勢参詣の流行や伊勢商人の経済力を背景に、江戸時代には三重の地からは色々な人材が輩出し、国学や蘭学など多様な文化の世界にその足跡を残している。ここでは、伊勢で活躍した知識人と全国の知識人のネットワークを提示し、三重の風土が、全国でもまれに見る情報文化や教育の充実と深く関わっていたことを紹介する。

【5-6-1】ネットワークを支えた風土　（中世～近世　主に近世）
【5-6-2】知のネットワーク　（中世～近代）

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.